福島県文化財調査報告書　第479集

福島県内遺跡分布調査報告18

２０１２年２月

福 島 県 教 育 委 員 会

福島県文化財調査報告書第479集
福島県内遺跡分布調査報告18
福島県教育委員会

福島県内遺跡分布調査報告18

序　　文

福島県教育委員会は，大規模開発等から埋蔵文化財包蔵地を保護するため，開発事業が行われる以前に詳細な分布調査を実施し，関係機関と保存協議を行い，埋蔵文化財の保存に努めております。

平成22年度は，２市３町１村の区域内で計画された６事業について試掘調査と表面調査を財団法人福島県文化振興事業団に委託して実施しました。

浜通り地方では，常磐自動車道建設事業に関連して相馬郡新地町において８か所の試掘調査を実施しました。

中通り地方では，阿武隈右岸築堤事業に関連して二本松市内において２か所，一般国道118号バイパス建設事業に関連して岩瀬郡鏡石町で１か所の試掘調査を実施しました。

会津地方では，阿賀川狭窄部改修事業に関連して喜多方市において１か所，会津縦貫北道路建設事業に関連して湯川村において１か所，一般国道289号南倉沢バイパス建設事業に関連して南会津郡下郷町において１か所の試掘調査を実施しました。

試掘調査の結果，存在が知られていた遺跡の範囲や内容が明らかになるとともに，これまで知られていなかった遺跡を発見することもできました。

特に，二本松市内のトロミ遺跡では，奈良・平安時代の竪穴住居跡や，土師器などの食器類，役所等の建物に使われていたと考えられる平瓦などが出土しており，当時の阿武隈川沿いの集落の様子を明らかにする手がかりを得ることができました。

本報告書が，埋蔵文化財の保護や地域の歴史を解明するための基礎資料となり，さらには生涯学習等の資料として広く県民の皆様に御活用いただければ幸いです。

最後に，この調査に御協力いただいた当該市町村教育委員会や財団法人福島県文化振興事業団をはじめ関係機関並びに関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成24年２月

福島県教育委員会

教育長　遠　藤　俊　博

緒　　言

１．本書は，平成22年度に実施した常磐自動車道，一般国道118号バイパス，地域高規格道路（会津縦貫北道路），一般国道289号南倉沢バイパスの各建設予定地内及び阿武隈川右岸築堤事業，阿賀川狭窄部改修事業予定地内に所在する遺跡，及び遺跡推定地（試掘調査により遺跡の存否を確認する地点）の試掘調査の報告書である。

２．この調査は，国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。

３．福島県教育委員会は，調査を財団法人福島県文化振興事業団に委託した。

４．財団法人福島県文化振興事業団は，下記の職員を配置して調査を実施した。

文化財主査　阿部知己　　文化財副主査　礒山千映美

嘱　　託　本田拓基

５．本書は，財団法人福島県文化振興事業団（遺跡調査課県内遺跡分布調査担当）の職員が執筆した。

６．調査にあたっては，地元地権者・地権者会・行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。
新地町教育委員会，二本松市教育委員会，鏡石町教育委員会，須賀川市教育委員会，喜多方市教育委員会，湯川村教育委員会，下郷町教育委員会，国土交通省東北地方整備局（福島河川国道事務所・郡山国道事務所），国土交通省北陸地方整備局（阿賀川河川事務所），福島県土木部（県中建設事務所・南会津建設事務所），東日本高速道路株式会社東北支社（相馬工事事務所）

７．事業名称が長いものについては，一部省略した表現を用いている。

８．本書に使用した遺跡の調査記録及び出土資料は，福島県教育委員会が保管している。

用　　例

１．本書における用例は次のとおりである。

⑴　遺跡及び遺跡推定地の位置図は，国土交通省国土地理院発行縮尺１/25,000及び１/50,000の地形図を複製した。

⑵　トレンチ配置図は，各事業主体作製の縮尺１/1,000地形図を基とした。

２．本書第２章における遺跡・遺跡推定地及びトレンチ配置図の用例は次のとおりである。

⑴ 保　存　：現状保存範囲

⑵ 未試掘　：未試掘範囲

⑶ 慎　重　：工事等の実施にあたっては慎重工事の措置をとる必要がある範囲

⑷ 除　外　：遺跡推定地で遺構・遺物が確認されず，遺跡として取り扱わないと判断された範囲

⑸ ■　：遺構・遺物が確認できたトレンチ

⑹ □　：遺構・遺物が確認できなかったトレンチ

⑺ ━━━━：工事予定範囲

⑻ ━・━・：表面調査による遺跡推定範囲

３．遺跡推定地の名称は便宜上，アルファベットの「Ｂ」と算用数字を組合せて表記するが試掘調査によって遺跡であることが確定すれば所在地の字名や地名をとり，新たに遺跡名称を付している。

４．各遺跡の呼び方は，『日本地名大辞典７福島県』（角川書店）収録の「小字一覧」にならったが，通称が定着しているときは，それに従った。

５．遺構図の用例は次のとおりである。

⑴　平面図の縮尺は，基本的に各挿図版の右下（スケール右側）に記した。

⑵　検出した遺構は，網点で表示した。

⑶　土色の判定に際しては，『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）を用いた。

６．遺物図の用例は次のとおりである。

⑴　縮尺は各挿図版の下（スケール右側）に記した。

⑵　土器・瓦の法量・計測値は，各実測図下に遺存値は（　），推定値は〔　〕で表記した。

７．本書で使用した略号は，次のとおりである。

Ｔ：トレンチ　　Ｌ：遺構外堆積土　　ℓ：遺構内堆積土　　ＳＫ：土　坑

ＳＤ：溝　跡　　ＳＩ：住居跡　　ＳＣ：木炭窯跡　　Ｐ：小　穴

新地町：ＳＴ　　二本松市：ＮＭ　　鏡石町：ＫＩ　　喜多方市：ＫＴ　　下郷町：ＣＧ

８．報告にあたっては，各事業で調査対象となった遺跡・遺跡推定地を市町村ごとに北から順に番号を付した。

目　　次

第１章　遺跡分布調査の概要 …… 1

第２章　試　掘　調　査 …… 3

第１節　常磐自動車道建設予定地 …… 3

朴木原遺跡（３）　ＳＴ－Ｂ⑧（５）　ＳＴ－Ｂ⑦（７）　北狼沢Ａ遺跡（７）

南狼沢遺跡（10）　大槻遺跡（11）　赤柴遺跡（13）　赤柴前遺跡（15）

第２節　阿武隈川右岸築堤事業予定地 ……17

ＮＭ－Ｂ１（18）　トロミ遺跡（18）

第３節　一般国道118号バイパス建設予定地 ……22

ＫＩ－Ｂ２（23）

第４節　阿賀川狭窄部改修事業予定地 ……24

ＫＴ－Ｂ１（24）

第５節　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地 ……25

桜町遺跡（26）

第６節　一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地 ……28

ＣＧ－Ｂ７（28）

第３章　ま　と　め ……31

挿図・表・写真目次

［挿　図］

第１章

図１　県内遺跡分布調査位置図 …… 1

第２章

図２　新地町の遺跡 …… 4
図３　朴木原遺跡・ＳＴ－Ｂ⑧トレンチ配置図，検出遺構 …… 6
図４　ＳＴ－Ｂ⑦トレンチ配置図 …… 8
図５　北狼沢Ａ遺跡トレンチ配置図，検出遺構，土層柱状図 …… 9
図６　南狼沢遺跡トレンチ配置図 …… 10
図７　大槻遺跡トレンチ配置図，土層柱状図 …… 12
図８　赤柴遺跡トレンチ配置図 …… 14
図９　赤柴遺跡検出遺構 …… 15
図10　赤柴前遺跡トレンチ配置図 …… 16
図11　二本松市の遺跡 …… 17
図12　ＮＨ－Ｂ１トレンチ配置図，土層柱状図 …… 19
図13　トロミ遺跡トレンチ配置図，出土遺物 …… 20
図14　トロミ遺跡トレンチ配置図，検出遺構，土層柱状図 …… 21
図15　鏡石町・須賀川市の遺跡 …… 22
図16　ＫＩ－Ｂ２トレンチ配置図，土層柱状図 …… 23
図17　喜多方市の遺跡 …… 24
図18　ＫＴ－Ｂ１トレンチ配置図，土層柱状図 …… 25
図19　湯川村の遺跡 …… 26
図20　桜町遺跡トレンチ配置図，土層柱状図 …… 27
図21　下郷町の遺跡 …… 29
図22　ＣＧ－Ｂ７トレンチ配置図 …… 30

［　表　］

第１章

表１　常磐自動車道試掘調査遺跡一覧 …… 2
表２　阿武隈川右岸築堤事業試掘調査遺跡一覧 …… 2
表３　一般国道118号バイパス試掘調査遺跡一覧 …… 2
表４　阿賀川狭窄部改修事業試掘調査遺跡一覧 …… 2
表５　地域高規格道路（会津縦貫北道路）試掘調査一覧 …… 2
表６　一般国道289号南倉沢バイパス試掘調査一覧 …… 2

第２章

表７　新地町所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 3
表８　朴木原遺跡トレンチ一覧 …… 5
表９　ＳＴ－Ｂ⑧トレンチ一覧 …… 5
表10　北狼沢Ａ遺跡トレンチ一覧 …… 7
表11　大槻遺跡トレンチ一覧 …… 11
表12　赤柴遺跡トレンチ一覧 …… 13
表13　二本松市所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 17
表14　トロミ遺跡トレンチ一覧 …… 22
表15　鏡石町所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 23
表16　喜多方市所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 24
表17　湯川村所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 26
表18　桜町遺跡トレンチ一覧 …… 28
表19　下郷町所在遺跡試掘調査成果一覧 …… 29

第３章

表20　常磐自動車道関連試掘調査対象遺跡成果一覧（新地町） …… 31
表21　常磐自動車道関連試掘調査対象遺跡成果一覧（相馬市） …… 32
表22　阿武隈川右岸築堤事業関連試掘調査対象遺跡成果一覧
（二本松市） …… 32
表23　一般国道118号バイパス関連試掘調査対象遺跡成果一覧
（鏡石町） …… 32
表24　阿賀川狭窄部改修事業関連試掘調査対象遺跡成果一覧
（喜多方市） …… 35
表25　地域高規格道路（会津縦貫北道路）関連試掘調査対象遺跡成果一覧
（湯川村・会津若松市） …… 35
表26　一般国道289号南倉沢バイパス関連試掘調査対象遺跡成果一覧
（下郷町） …… 35

［写　真］

１　22Ｔ土坑完掘状況（西から） …… 3
２　朴木原遺跡・ＳＴ－Ｂ⑧全景（北から） …… 5
３　33Ｔ遺物出土状況（東から） …… 11
４　41Ｔ土坑検出状況（東から） …… 13
５　赤柴前遺跡全景（南から） …… 15
６　４Ｔ竪穴住居跡・溝跡検出状況（東から） …… 18
７　桜町遺跡南側全景（北から） …… 26

第１章　遺跡分布調査の概要

平成22年度は，６事業２市３町１村についての試掘調査91,000㎡を財団法人福島県文化振興事業団に委託して実施した。

[常磐自動車道]

新地町における計画路線内の遺跡・遺跡推定地である朴木原遺跡・ＳＴ－Ｂ⑧・ＳＴ－Ｂ⑦・北狼沢Ａ遺跡・南狼沢遺跡・大槻遺跡・赤柴遺跡・赤柴前遺跡の８箇所計66,800㎡を対象に試掘調査を実施した。なお，大槻遺跡については，試掘終了後に発掘調査を行っている。

[阿武隈川右岸築堤事業]

二本松市トロミ地区における築堤事業計画地のうち，遺跡推定地としたＮＨ－Ｂ１及びトロミ遺跡の２箇所計14,300㎡を対象に試掘調査を実施した。

[一般国道118号バイパス]

岩瀬郡鏡石町における計画路線内の遺跡推定地ＫＩ－Ｂ２の3,500㎡を対象に試掘調査を実施した。

[阿賀川狭窄部改修事業]

喜多方市慶徳町における狭窄事業計画地のうち，遺跡推定地ＫＴ－Ｂ１の3,200㎡を対象に試掘調査を実施した。

[地域高規格道路（会津縦貫北道路）]

河沼郡湯川村における計画路線内の桜町遺跡1,400㎡を対象に試掘調査を実施した。

[一般国道289号南倉沢バイパス]

南会津郡下郷町における計画路線内の遺跡推定地ＣＧ－Ｂ７の1,800㎡を対象に試掘調査を実施した。

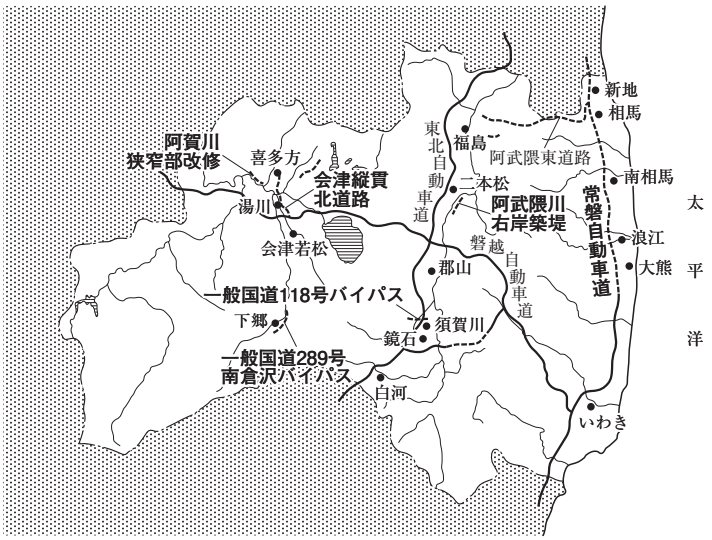


図１　県内遺跡分布調査位置図

表１　常磐自動車道試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　　地	調査期間	トレンチ		備　　考
朴木原遺跡	新地町福田字朴木原	段丘面	11/4～11/26	28本	14.7%	
ＳＴ－Ｂ⑧	福田字朴木原	段丘面	11/4～11/26	６本	16.1%	
ＳＴ－Ｂ⑦	真弓字原畑	段丘面	11/11～11/12	11本	5.2%	
北狼沢Ａ遺跡	谷地小屋字北狼沢	丘陵	4/19～4/22, 10/4～10/8	16本	8.6%	
南狼沢遺跡	谷地小屋字南狼沢	丘陵	11/9～11/10	４本	7.6%	
大 槻 遺 跡	杉目字大槻	丘陵	4/22～5/21	43本	7.2%	
赤 柴 遺 跡	駒ヶ嶺字赤柴	丘陵	5/31～6/2, 9/13～10/28	37本	12.2%	
赤柴前遺跡	駒ヶ嶺字赤柴前	丘陵	5/25～5/31	11本	9.6%	

表２　阿武隈川右岸築堤事業試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　　地	調査期間	トレンチ		備　　考
ＮＨ－Ｂ１	二本松市北トロミ	沖積地	6/22～8/18	５本	4.3%	
トロミ遺跡	北トロミ・南トロミ	沖積地	6/22～9/2	14本	9.6%	

表３　一般国道118号バイパス試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　　地	調査期間	トレンチ		備　　考
ＫＩ－Ｂ２	鏡石町蒲之沢町	丘陵	12/14～12/16	５本	10.1%	

表４　阿賀川狭窄部改修事業試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　　地	調査期間	トレンチ		備　　考
ＫＴ－Ｂ１	喜多方市慶徳町字山科字古屋敷	沖積地～段丘面	10/14～10/22	３本	4.8%	

表５　地域高規格道路（会津縦貫北道路）試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　　地	調査期間	トレンチ		備　　考
桜町遺跡	湯川村桜町字千苅	沖積地	9/28, 10/27～11/11	８本	9.1%	

表６　一般国道289号南倉沢バイパス試掘調査遺跡一覧

名　称	所　在　地	立　　地	調査期間	トレンチ		備　　考
ＣＧ－Ｂ７	下郷町南倉沢字猪馬場平	段丘面	9/21～10/1	５本	1.8%	

［註］：表中のトレンチ内の％は，今年度試掘調査対象面積に対するトレンチ面積の割合を示す。

第２章　試　掘　調　査

第１節　常磐自動車道建設予定地

常磐自動車道は，埼玉県三郷市の三郷インターチェンジ（以下，ＩＣと略す）を起点として，千葉県，茨城県，福島県を通り，宮城県亘理町の亘理ＩＣを終点とする高速道路である。現在，東日本高速道路株式会社東北支社が事業を進めており，三郷ＩＣから福島県の富岡ＩＣまでは供用している。試掘調査は，昭和59年度から開始し，平成21年度には新地町５箇所，相馬市１箇所，南相馬市４箇所，双葉町１箇所の遺跡・遺跡推定地について調査を実施した。これにより相馬市以南の試掘調査は終了した。

平成22年度は，新地町の遺跡５箇所と遺跡推定地２箇所の調査を実施した。

１．朴木原（ほうのきはら）遺跡

所　　在　　地　新地町福田字朴木原

調査対象面積　6,900㎡　**トレンチ数**　28本

保　存　面　積　1,700㎡

調　査　期　間　平成22年11月４日～26日

検　出　遺　構　竪穴住居跡，土坑，溝跡

出　土　遺　物　縄文土器

1　22Ｔ土坑完掘状況（西から）

［概　　要］　朴木原遺跡は，平成10年度に実施した表面調査で縄文土器を採集し，遺物散布地として埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。三滝川北岸の標高75～87ｍの段丘上に立地する。現況は山林である。今回の試掘調査は，6,900㎡を対象に28本のトレンチを設定して行った。堆積土を観察すると，遺跡南側と北側では地表から約30㎝の深さで基盤層となる褐色粘質土もしくは黄褐色粘質土（Ⅳ層）が確認できる。その上層にはややにごった色調の褐色粘質土(Ⅲ層)及び表土が堆積しており，この層には遺物が含まれる。遺跡中央付近には沢が入っており，沢への流入土（Ⅱ層）が見られ，基盤層までの深さは40～50㎝を測る。

［遺構・遺物］　遺構は１Ｔで竪穴住居跡１軒，土坑２基を検出し，３Ｔでも竪穴住居跡１軒をトレンチ壁の断面で確認した。これらの遺構内・周辺からは縄文土器が出土する。８Ｔでは時期不明の溝跡を検出した。溝跡は９Ｔで確認した沢に連なる。遺構はいずれもⅣ層上面で確認した。遺構外出土の遺物はすべてⅢ層か

表７　新地町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　積	平成22年度調査		未試掘面積	平成22年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	朴木原遺跡	6,900㎡	6,900㎡	1,700㎡	0㎡	住居跡，土坑，溝跡	縄文土器
2	ＳＴ－Ｂ⑧	1,100㎡	1,100㎡	1,100㎡	0㎡	土坑，柱穴，炭窯	縄文土器，石器
3	ＳＴ－Ｂ⑦	8,500㎡	2,400㎡	0㎡	6,100㎡		
4	北狼沢Ａ遺跡	16,200㎡	7,400㎡	3,500㎡	3,800㎡		縄文土器，陶磁器
5	南狼沢遺跡	8,000㎡	5,000㎡	0㎡	3,000㎡		縄文土器
6	大槻遺跡	32,100㎡	17,000㎡	1,000㎡	7,500㎡		縄文土器，土師器，石器
7	赤柴遺跡	32,700㎡	22,600㎡	16,300㎡	7,100㎡	土坑，溝跡，柱穴	土師器，石器
8	赤柴前遺跡	54,800㎡	4,400㎡	2,500㎡	11,500㎡		
新地町　計		160,300㎡	66,800㎡	26,100㎡	39,000㎡		

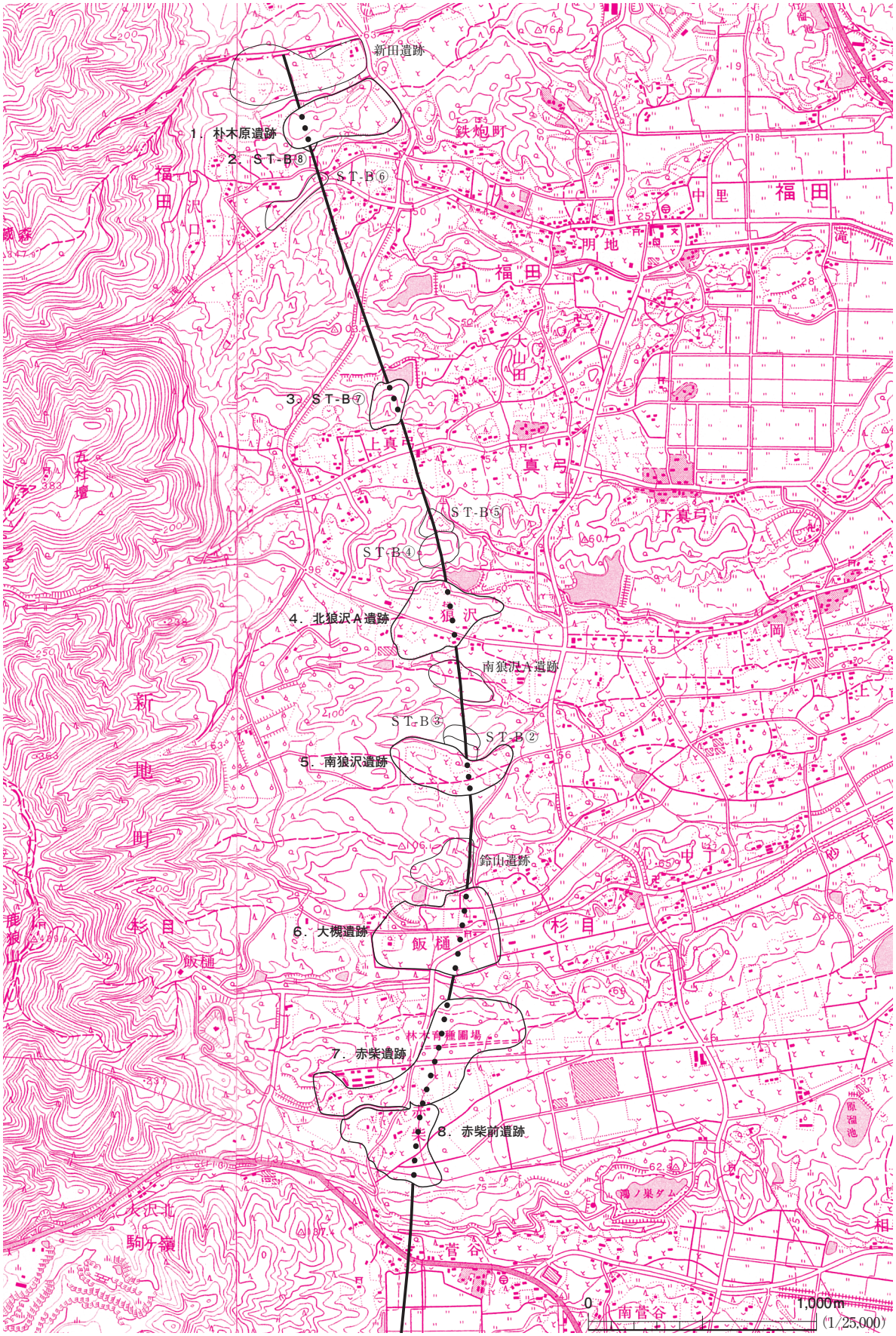

新田遺跡
1．朴木原遺跡
2．ST-B⑧
ST-B⑥
3．ST-B⑦
ST-B⑤
ST-B④
4．北狼沢A遺跡
南狼沢A遺跡
ST-B③
ST-B②
5．南狼沢遺跡
鈴山遺跡
6．大槻遺跡
7．赤柴遺跡
8．赤柴前遺跡
鉄炮町
福田
中里
明地
大山田
上真弓
真弓
下真弓
狼沢
新地町
杉目
飯樋
林木育種圃場
鴻ノ巣ダム
菅谷
南菅谷
0
1,000m
(1/25,000)

図2　新地町の遺跡

表８　朴木原遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物（時期）	トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物（時期）
１Ｔ	住居跡（縄文），土坑（縄文）	30㎝	○	縄文土器	８Ｔ	溝跡	40㎝	○	
３Ｔ	住居跡（縄文）	10㎝	○	縄文土器	22Ｔ	土坑	40㎝	○	

ら出土した。

また，遺跡北端の22Ｔでは土坑を検出した。この土坑に関しては，他の遺構から離れていること，周辺のトレンチで遺構・遺物が確認できなかったことから，試掘調査の中で本発掘調査を行い，この付近を保存対象外とした。土坑は，壁面に赤褐色の被熱範囲が見られ，堆積土に炭化物を多く含む。木炭焼成土坑と考えられるが，遺物の出土はなく，明確な時期は不明である。ただし，検出面はⅢ層上面で，近現代以前の所産と考えられる。

［ま　と　め］　調査の結果，溝跡を検出した８Ｔとそれに連なる沢を確認した９Ｔ以南の1,700㎡は保存する必要がある。なお，保存面積については，遺跡推定地（ＳＴ－Ｂ⑧）と合わせ2,800㎡とする。遺跡北側については，22Ｔ以外に遺構・遺物が確認できなかったため，検出した木炭焼成土坑を試掘調査の中で本発掘調査を行い，保存対象外としたが，工事等の実施にあたっては慎重に行う必要がある。

２．ＳＴ－Ｂ⑧［朴木原遺跡］

所　　在　　地　新地町福田字朴木原
調査対象面積　1,100㎡　**トレンチ数**　６本
保　存　面　積　1,100㎡
調　査　期　間　平成22年11月４日～26日
検　出　遺　構　竪穴住居跡，土坑，小穴，木炭窯跡
出　土　遺　物　縄文土器・石器

２　朴木原遺跡・ＳＴ－Ｂ⑧全景（北から）

［概　　要］　ＳＴ－Ｂ⑧は，朴木原遺跡の南西に隣接する。地形的に朴木原遺跡が広がる可能性があり，遺跡推定地として試掘調査を実施した。三滝川北岸の標高77～82ｍの段丘上に立地する。現況は山林である。今回の試掘調査は，1,100㎡を対象に６本のトレンチを設定して行った。堆積土を観察すると，地表から約30㎝の深さで基盤層となる褐色粘質土（Ⅳ層）が確認できる。その上層にはややにごった色調の褐色粘質土（Ⅲ層）が堆積しており，この層には遺物が含まれる。Ⅲ層の上には表土（Ⅰ層）が堆積している。

［遺構・遺物］　遺構は，１Ｔで土坑２基，小穴１基，木炭窯跡１基を検出した。土坑と小穴の周辺からは縄文土器が出土した。小穴は上層に焼土が混入している。いずれもⅣ層上面で確認した。縄文時代の所産と思われる。木炭窯跡は，表土直下で確認した。大竹式の様相で近代のものと考える。他に，２・６Ｔで縄文土器と石器がⅢ層中から出土した。

［ま　と　め］　遺構・遺物の出土状況及び朴木原遺跡の調査結果から，試掘調査対象の1,100㎡すべて保存の必要がある。本遺跡推定地は，位置・地形的に朴木原遺跡の増補部分とし，遺跡名は朴木原遺跡とした。したがって，朴木原遺跡は本遺跡推定地と合わせて2,800㎡の保存が必要である。

表９　ＳＴ－Ｂ⑧トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	出土遺物（時期）
１Ｔ	炭窯（近代），土坑，柱穴	20㎝		
２Ｔ				縄文土器，石器（石鏃），陶器
６Ｔ				縄文土器

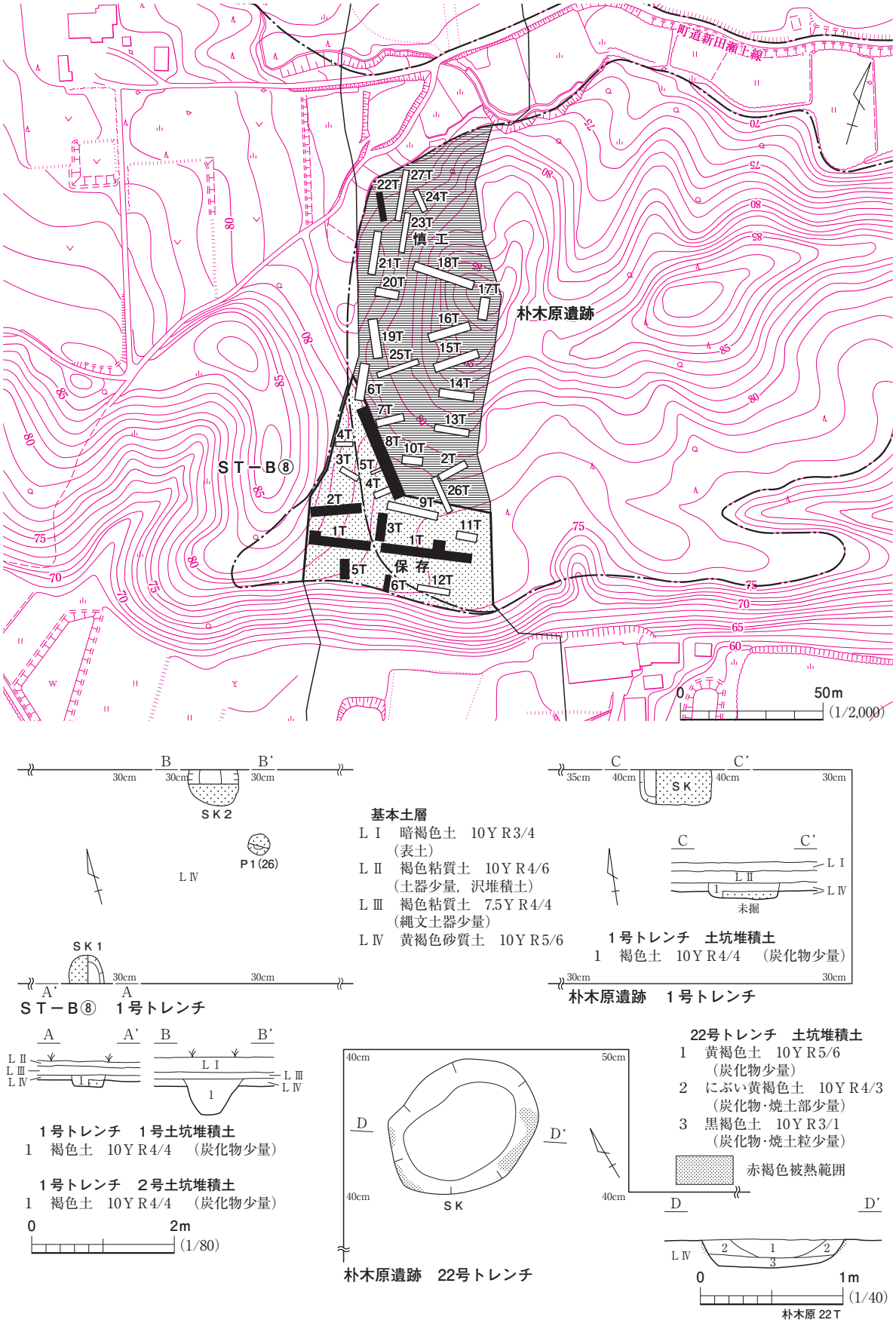


図３　朴木原遺跡・ＳＴ－Ｂ⑧トレンチ配置図，検出遺構

３．ＳＴ－Ｂ⑦

所　在　地　新地町真弓字原畑　　**調査期間**　平成22年11月11日～12日
調査対象面積　2,400㎡　　**トレンチ数**　11本　　**検出遺構**　な　し
保存面積　0㎡　　**出土遺物**　な　し

［概　　要］　ＳＴ－Ｂ⑦は，北側の溜池に注ぎ込む沢付近に鉄滓が散布することから，平成21年度に新たに確認した遺跡推定地である。谷地田川北岸の標高65～85ｍの段丘上に立地し，遺跡南端は急斜面となっている。現況は山林である。今回の試掘調査は，遺跡南端の2,400㎡を対象にトレンチ11本を設定し行った。堆積土を観察すると，段丘上から斜面上部にかけてはほとんど堆積土がなく，0～５㎝の深さで基盤層の明黄褐色砂質土（Ⅲ層）が見られる。斜面下部は深い谷になっており，流入土（Ⅱ層）が厚く堆積し，90～150㎝の深さで基盤層に至る。

［ま　と　め］　調査の結果，遺構・遺物は確認できなかった。このことから，今回の工区内調査範囲については，遺跡として扱わない。

４．北狼沢（きたおいざわ）Ａ遺跡（第２・３次調査）

所　在　地　新地町谷地小屋字北狼沢　　**調査期間**　平成22年４月19日～22日（第２次）
10月４日～８日（第３次）
調査対象面積　7,400㎡　　**トレンチ数**　16本　　**検出遺構**　な　し
保存面積　0㎡　　**出土遺物**　な　し

［概　　要］　北狼沢Ａ遺跡は，平成10年度の表面調査で，土器などを採集したことにより埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。標高68～77ｍの丘陵上に立地し，北側には平成21年度に新たに確認した遺跡推定地ＳＴ－Ｂ④が位置する。平成21年度の試掘調査では，3,500㎡が保存対象となっている（『福島県遺跡分布調査17』）。平成22年度の試掘調査は，第２次調査として町道の北側3,300㎡，第３次調査として県道の南側4,100㎡，合計7,400㎡を対象に，トレンチ合計16本を設定して行った。堆積土を観察すると，いずれも地表から30～100㎝の深さで，基盤層となる黄褐色土（Ⅲ層）が確認できる。ただし，12Ｔ付近は，基盤層が東側に落ち込み，その上に厚く盛土がされている。

［遺構・遺物］　遺物は県道北側に設定した13Ｔから陶器片が１点，17Ｔの撹乱から縄文土器（早期）が１点確認された。遺構は確認できなかった。

平成21年度に10Ｔで検出されていた１基の土坑については，周囲に他の遺構がないことから，今回の試掘調査の中で本発掘調査を実施した。土坑は，隅丸長方形の平面形で，撹乱により遺構の上位が大きく失われている。堆積土の上層から縄文土器の細片が４点出土している。出土した土器は内面に条痕文が見られることから縄文時代早期のものと思われ，土坑も当該期の所産と考える。

［ま　と　め］　調査の結果，遺物はわずかに出土したものの，遺構は確認できなかった。このことから，今回の工区内調査範囲については，保存の必要はない。平成21年度に保存範囲を未確定としていた町道北側の10Ｔ付近の範囲についても，検出していた土坑の調査を終了したことから，保存の必要は

表10　北狼沢Ａ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時期）
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
14Ｔ				陶器
17Ｔ				縄文土器（早期）

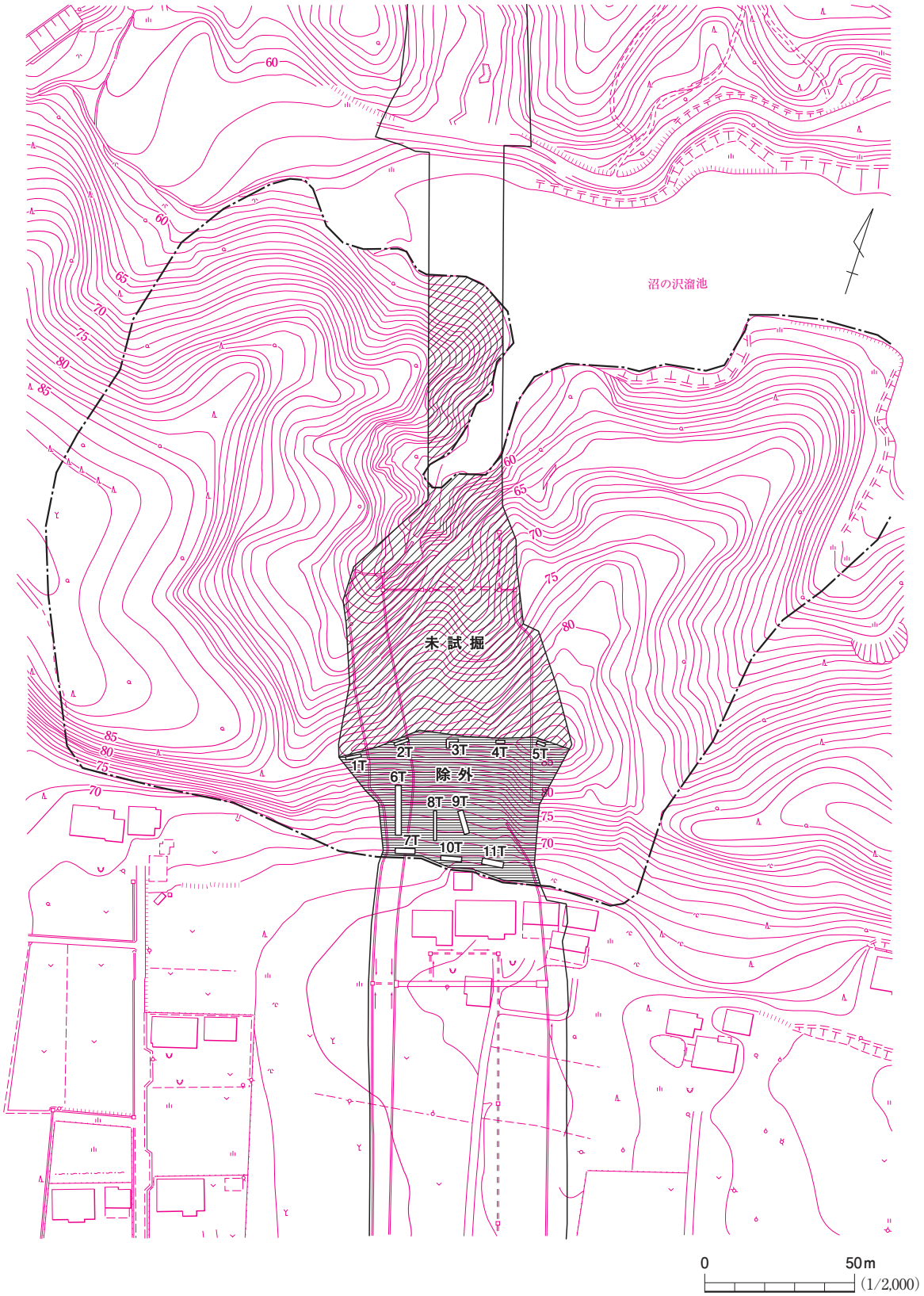
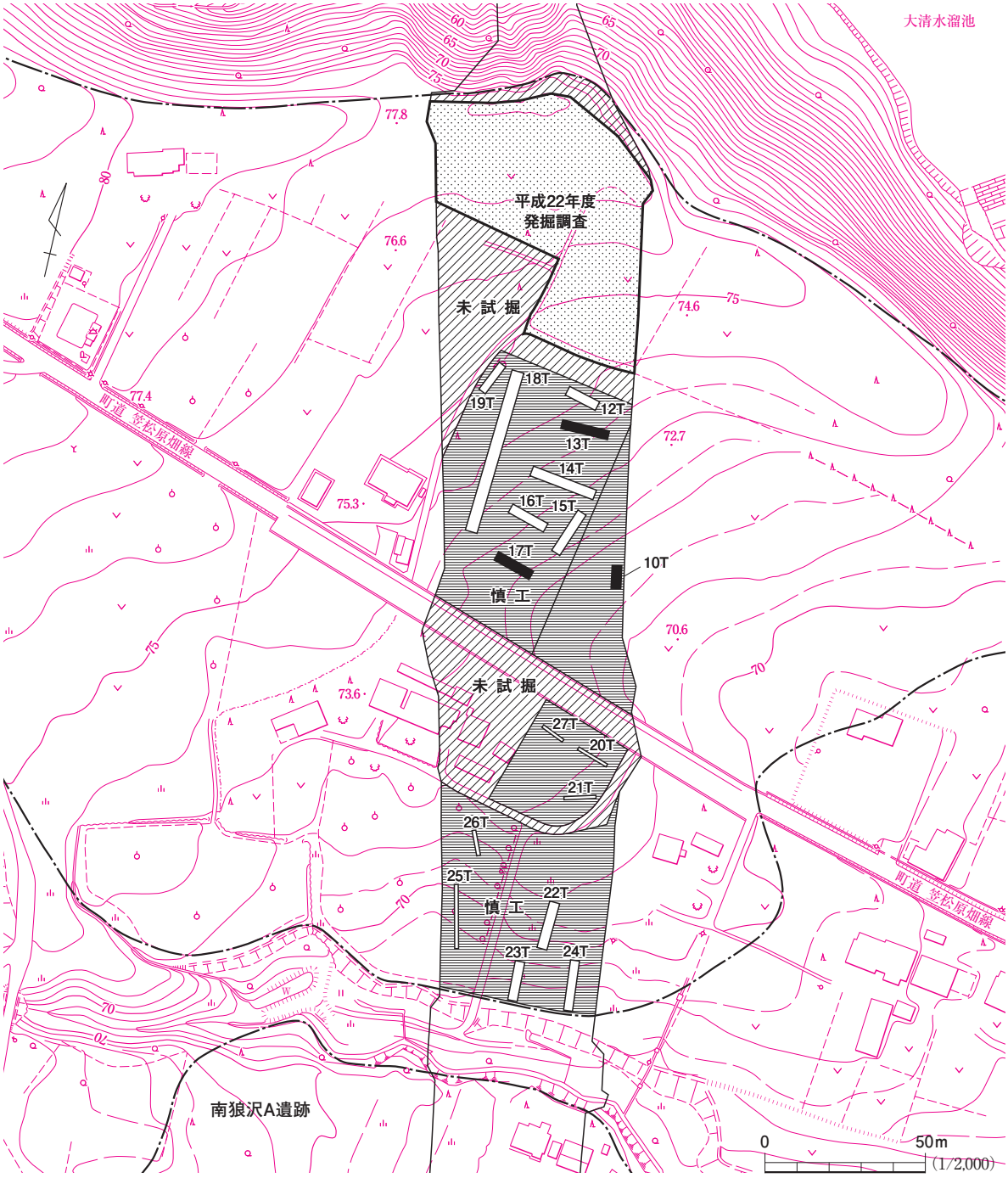


図4　ＳＴ－Ｂ⑦トレンチ配置図



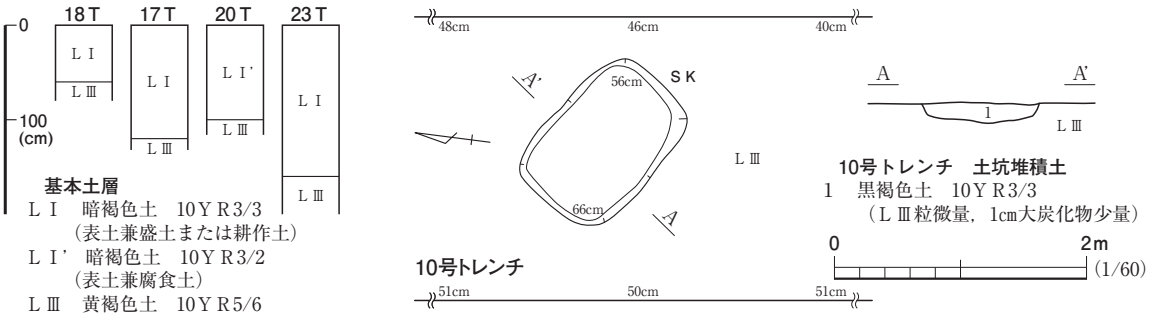


図５　北狼沢Ａ遺跡トレンチ配置図，検出遺構，土層柱状図

ない。いずれの工区内範囲については，工事等の実施にあたっては慎重に行う必要がある。

5．南狼沢遺跡

所　在　地　新地町谷地小屋字南狼沢他　　**調査期間**　平成22年11月９日～10日

調査対象面積　5,000㎡　　**トレンチ数**　４本　　**検出遺構**　な　し

保存面積　0㎡　　**出土遺物**　縄文土器

［概　　要］　南狼沢遺跡は，平成10年度の表面調査で，土器を採集したことにより埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。標高70～75mの丘陵上に立地し，現況は牧草地である。今回の試掘調査は，遺跡中央を通る林道の南側5,000㎡を対象に，トレンチ４本を設定して行った。堆積土は，地表から30～40㎝の深さで基盤層となる明黄褐色土（Ⅱａ層）が確認できる。遺跡の南端では基盤層が掘削を受けて失われており，下層の礫層（Ⅱｂ層）が見られる。また，林道付近も造成の際に掘削されているようである。

［ま　と　め］　調査の結果，林道や畑の造成等に伴う旧地形の改変が著しく，縄文土器（早期）を１点確認できたものの，遺構は確認できなかった。このことから，今回の工区内調査範囲については，保存の必要はないが，工事等の実施にあたっては慎重に行う必要がある。

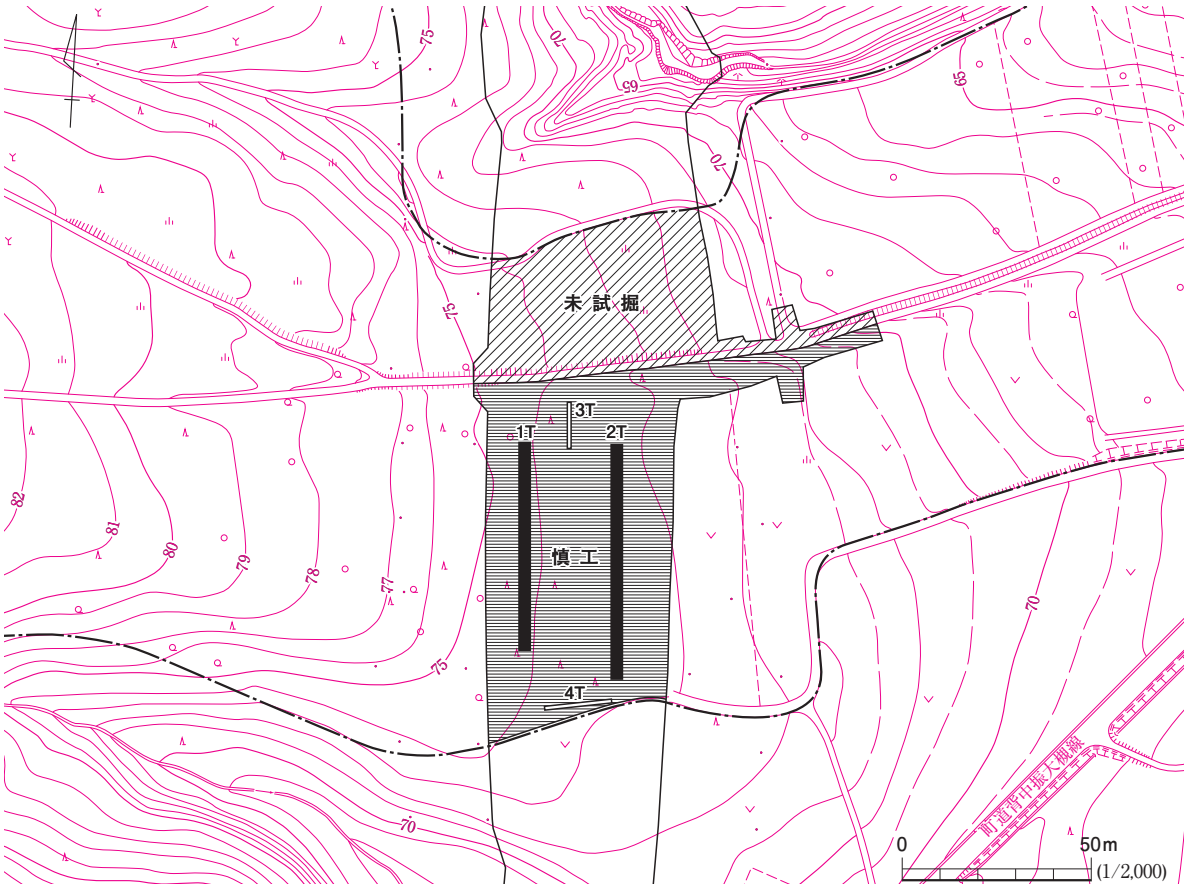


図６　南狼沢遺跡トレンチ配置図

６．大槻（おおつき）遺跡（第２次調査）

所　　在　　地　新地町杉目字大槻他

調　査　期　間　平成22年４月22日～５月21日

調査対象面積　17,000㎡　**トレンチ数**　43本

保　存　面　積　1,000㎡

検　出　遺　構　焼土遺構

出　土　遺　物　縄文土器・土師器・石器（凹石）

３　33Ｔ遺物出土状況（東から）

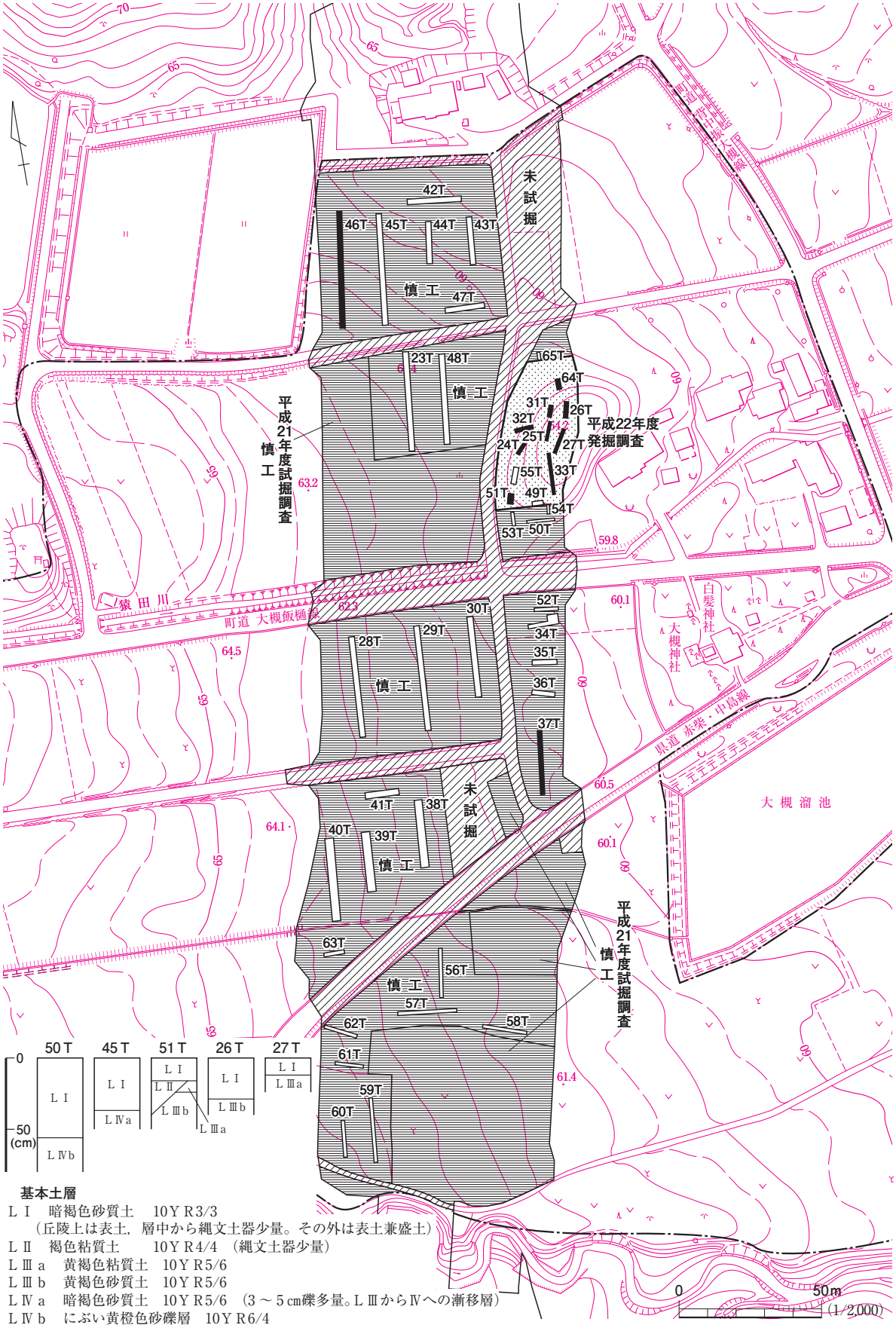
［概　　要］　大槻遺跡は，平成10年度の表面調査で石器・土師器を採集し，遺物散布地として埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。遺跡は標高61～66ｍの丘陵上に立地し，現況は桑・イチョウなどの畑である。今回の試掘調査は，平成21年度に実施した第１次試掘調査区の周囲17,000㎡を対象に，43本のトレンチを設定して行った。堆積土を観察すると，調査区東側の丘陵付近では，地表面から15～50㎝の深さで基盤層である黄褐色粘質土（Ⅲ層）が確認できる。斜面では遺物を含む褐色砂質土（Ⅱ層）がその間に入る。丘陵以外の調査区は，地形の改変が著しく，表土または盛土直下で砂礫を多量に含む黄褐色粘質土（Ⅳａ層）と，砂礫層（Ⅳｂ層）が見られる。広範囲で掘削を受けていると思われる。

［遺構・遺物］　遺構・遺物は，調査区東側の丘陵部に集中していることを確認した。丘陵上の55Ｔから焼土遺構１基と縄文土器細片を検出した。その周囲の25～27・31～33・51・64Ｔからも縄文土器片が出土した。32Ｔからは凹石と思われる石器も出土した。縄文土器片は縄文時代中期末頃のものが多く，Ⅱ層に含まれる。32・51Ｔの土層観察から，この縄文土器を含むⅡ層は西側の砂利道の方へ続くことが予想される。丘陵以外の範囲では，調査区南側の34Ｔで溝の端部を検出したが，近現代の暗渠排水溝と判断した。遺物は調査区南東側の37Ｔから縄文土器が，調査区北側の46Ｔから土師器が出土したが，いずれも表土中からの出土である。

［ま　と　め］　調査の結果，東側調査区の丘陵部分から遺構及び遺物を確認できたことから，このうち1,000㎡については保存する必要がある。保存対象範囲以外の調査区については，近年の耕地整備等に伴って大きく改変され，旧地形は失われたものと考えられることから，保存の必要はないが，工事等の実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお，今回の試掘調査での保存対象範囲（1,000㎡）については，平成22年度に発掘調査を実施している。

表11　大槻遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物（時期）	トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物（時期）
25Ｔ				縄文土器	34Ｔ	溝跡（近現代）	50㎝	○	
26Ｔ				縄文土器	37Ｔ				縄文土器
27Ｔ				縄文土器	46Ｔ				土師器
31Ｔ				縄文土器	51Ｔ				縄文土器（中期末葉）
32Ｔ				縄文土器，石器（凹石）	55Ｔ	焼土遺構	20㎝	×	縄文土器，焼土塊
33Ｔ				縄文土器（中期末葉）	64Ｔ				縄文土器



基本土層

ＬⅠ　暗褐色砂質土　10ＹＲ3/3
（丘陵上は表土，層中から縄文土器少量。その外は表土兼盛土）
ＬⅡ　褐色粘質土　10ＹＲ4/4　（縄文土器少量）
ＬⅢａ　黄褐色粘質土　10ＹＲ5/6
ＬⅢｂ　黄褐色砂質土　10ＹＲ5/6
ＬⅣａ　暗褐色砂質土　10ＹＲ5/6　（3～5㎝礫多量。ＬⅢからⅣへの漸移層）
ＬⅣｂ　にぶい黄橙色砂礫層　10ＹＲ6/4

図7　大槻遺跡トレンチ配置図，土層柱状図

７．赤柴（あかしば）遺跡（第２・３次調査）

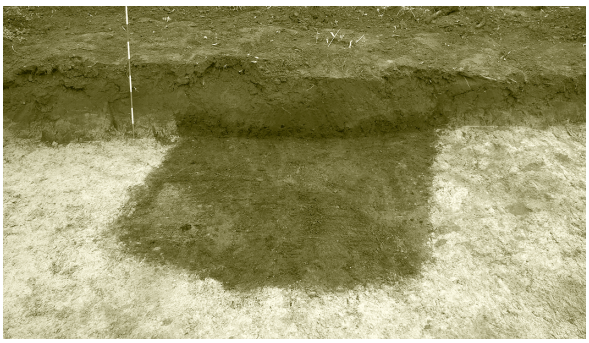
所　在　地　新地町駒ヶ嶺字赤柴他

調査対象面積　22,600㎡　**トレンチ数**　37本

保存面積　16,300㎡

調査期間　平成22年５月31日～６月２日（第２次）

平成22年９月13日～10月28日（第３次）



４　41Ｔ土坑検出状況（東から）

検出遺構　土坑，落し穴状土坑，溝跡，柱穴

出土遺物　土師器・石器

［概　　要］　赤柴遺跡は，平成10年度の表面調査で，羽口・鉄滓などを採集したことにより埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。標高69～78ｍの丘陵上の平坦地に立地する。南側になだらかな地形が連続し，赤柴前遺跡が接している。現状は，福島県の林木育種圃場跡地内及び畑，山林，宅地である。

今回の試掘調査は，第２次調査として南側の宅地周辺3,700㎡にトレンチ10本，第３次調査として町道・宅地・山林を除いた18,900㎡にトレンチ27本を設定して行った。堆積土を観察すると，いずれも表土及び盛土を25～70㎝下げたところで，基盤層の黄褐色粘質土（Ⅲ層）が確認できる。町道南側の基盤層は，町道北側のⅢ層と比べると土色は同じであるものの，土質が異なり，粘性が強く雨水を含むと著しく軟弱となる。

［遺構・遺物］　遺構は，調査区の北側と南側に集中している。北側調査区では24～30Ｔで土坑を計11基確認した。この多くは木炭焼成土坑と考えられる。また，26～29Ｔではそれぞれ溝跡を確認したが，これらは連続する１条の溝跡になる。溝跡の南北側には，掘削した土を盛っていたと思われる痕跡がトレンチ壁面で部分的に確認できる。29Ｔでは堆積土に焼土・炭化物を多く含む性格不明の遺構も１基確認した。18Ｔでは落し穴状土坑を１基確認した。

南側調査区では，40～42Ｔで土坑を計５基確認し，そのうちの１基は比較的大型の木炭焼成坑と思われる。42Ｔでは掘形を持つ柱穴１基をトレンチ西壁面で確認している。遺構はすべてⅢ層で確認した。

遺物は，北側調査区で溝跡が確認された付近に集中している。26・28Ｔの表土及び土坑内から土師器片が，27Ｔの溝跡から石器（剥片）が出土している。

また，平成21年度に実施した調査は，掘削範囲が狭く，木根が密集し十分な調査を実施できなかったため，昨年度２・３・６Ｔで確認した３基の遺構について再確認調査を実施したところ，遺構でないと判断した。

［ま　と　め］　今年度確認した遺構と遺物の出土状況から判断して，北側調査区の18Ｔ付近の1,000㎡と24

表12　赤柴遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物（時期）	トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物（時期）
18Ｔ	土坑（落し穴）	30㎝	○		29Ｔ	土坑，溝跡，性格不明遺構	25㎝	○	
24Ｔ	土坑	30㎝	○		30Ｔ	土坑	40㎝	○	
25Ｔ	土坑	35㎝	○		40Ｔ	土坑	45㎝	○	
26Ｔ	土坑，溝跡	45㎝	○	土師器	41Ｔ	土坑	40㎝	○	
27Ｔ	土坑，溝跡	50㎝	○	石器（剥片）	42Ｔ	土坑，柱穴	30㎝	○	
28Ｔ	土坑，溝跡	45㎝	○	土師器					

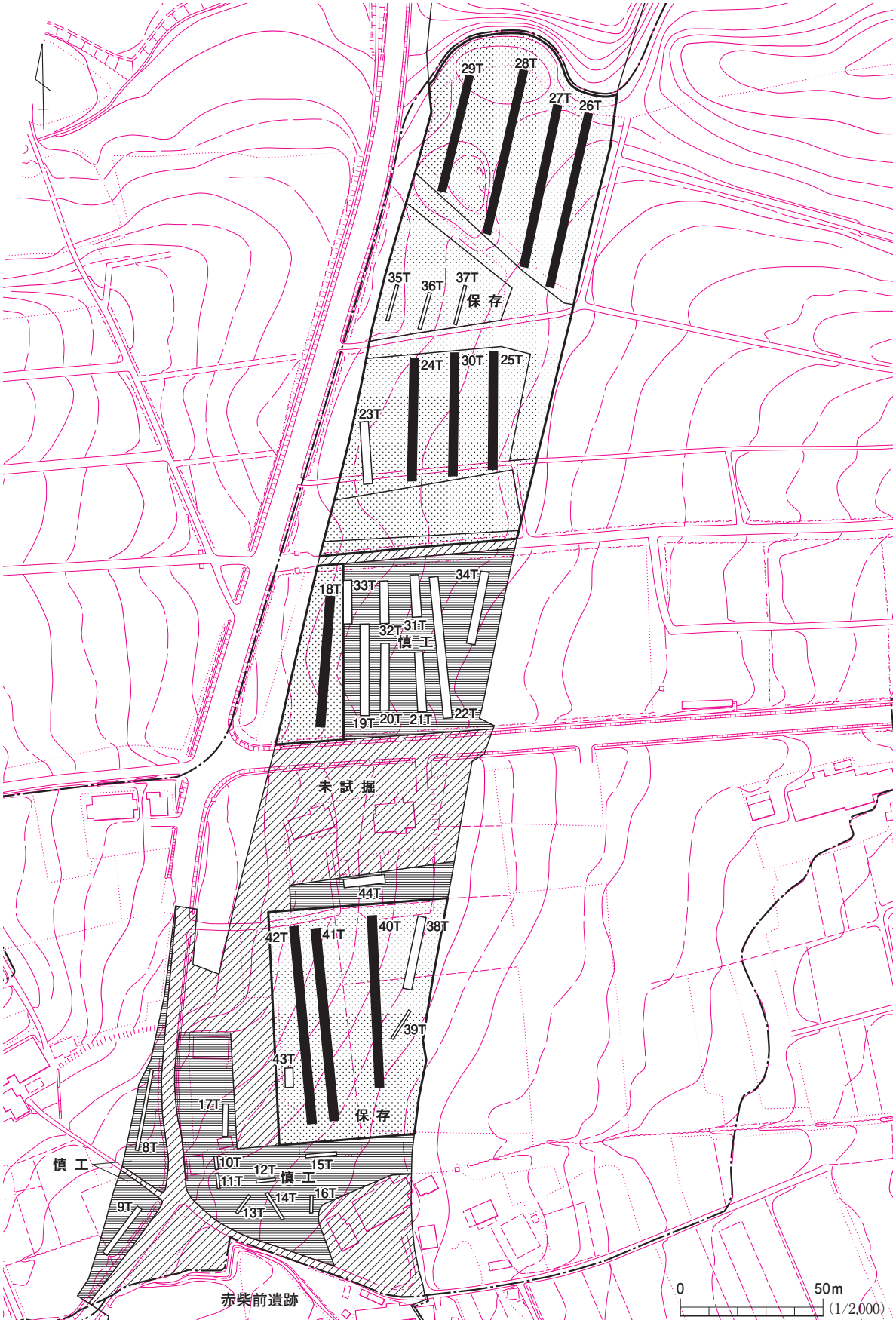


図8　赤柴遺跡トレンチ配置図

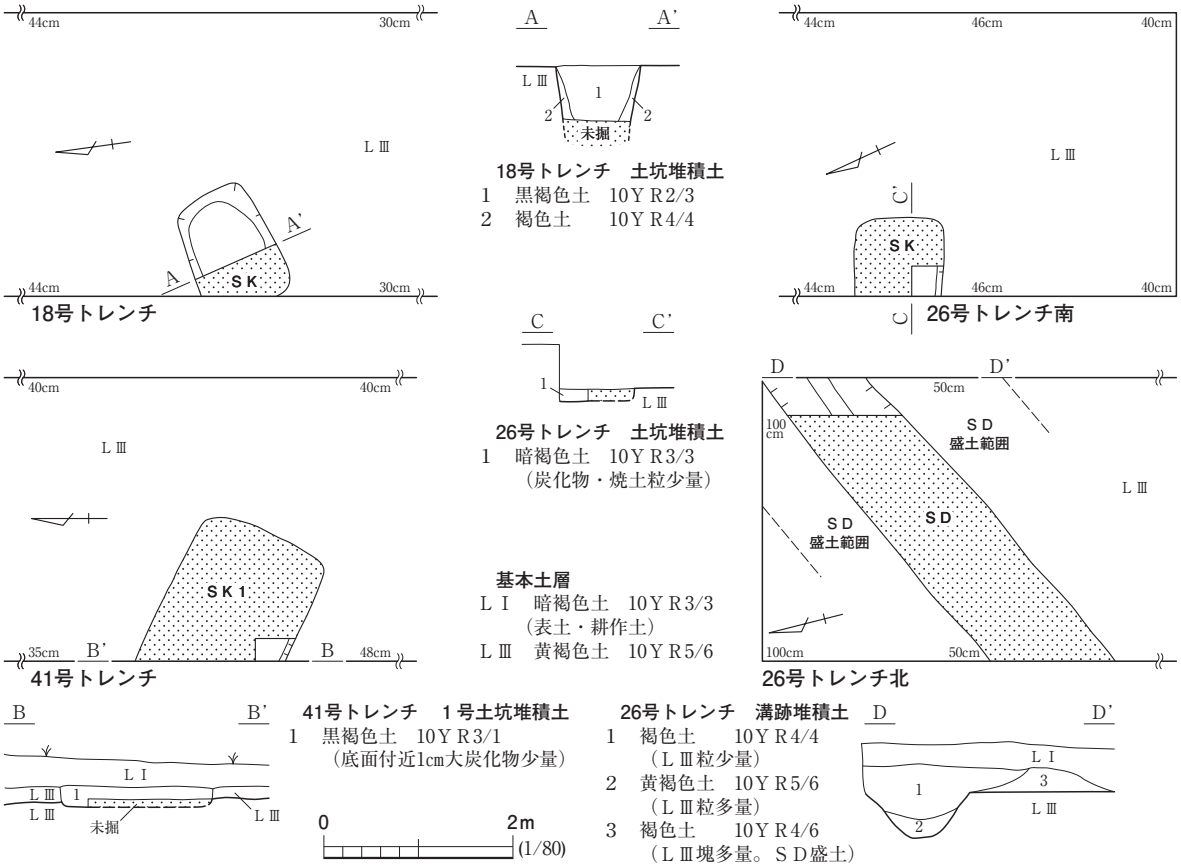


図９　赤柴遺跡検出遺構

～30Ｔ付近の11,000㎡を併せて12,000㎡，及び40～42Ｔ付近の南側調査区4,300㎡，合計16,300㎡については保存の必要がある。調査区南端と中央部分では，遺構・遺物ともに確認できなかったため，保存の必要はないが，工事等の実施にあたっては慎重に行う必要がある。

８．赤柴前遺跡（第４次調査）

所　在　地　新地町駒ヶ嶺字赤柴前他

調査対象面積　6,900㎡　**トレンチ数**　10本

保存面積　未定

調査期間　平成22年５月25日～31日

検出遺構　な　し

出土遺物　な　し

５　赤柴前遺跡全景（南から）

［概　　要］　赤柴前遺跡は，平成10年度の表面調査で，縄文土器・土師器などを採集したことにより埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。遺跡は立田川北岸の標高67～73ｍの丘陵平坦地に立地する。現況は，山林，荒地，畑である。平成20年度の試掘調査の結果，東側に隣接する遺跡推定地ＳＴ－Ｂ①については同様の地形が連続することから，本遺跡に含めている。平成19年度の第１次試掘調査と，平成20年度の第２次試掘調査で合計3,500㎡の保存が確定し，この保存対象範囲については，平成21・22年度に発掘調査を実施した。また，平成21年度の第３次試掘調査では28・29・34・45・49Ｔにおいて，それぞれ土坑を確認したが，保存面積については未試掘範囲の調査後に判断する。

今回の試掘調査は，宅地と山林を除く未試掘部分4,400㎡を対象に，トレンチ11本を設定して行った。堆積土を観察すると，表土から20～50㎝以下に，基盤層である黄褐色砂質土（Ⅲ層）が確認できる。

［ま　と　め］ 調査の結果，トレンチ内からの遺構・遺物は確認できなかった。今回の調査区については保存の必要はないが，工事等の実施にあたっては慎重に行う必要がある。平成21年度試掘調査実施部分の保存面積については，未試掘範囲の実施後に判断する。

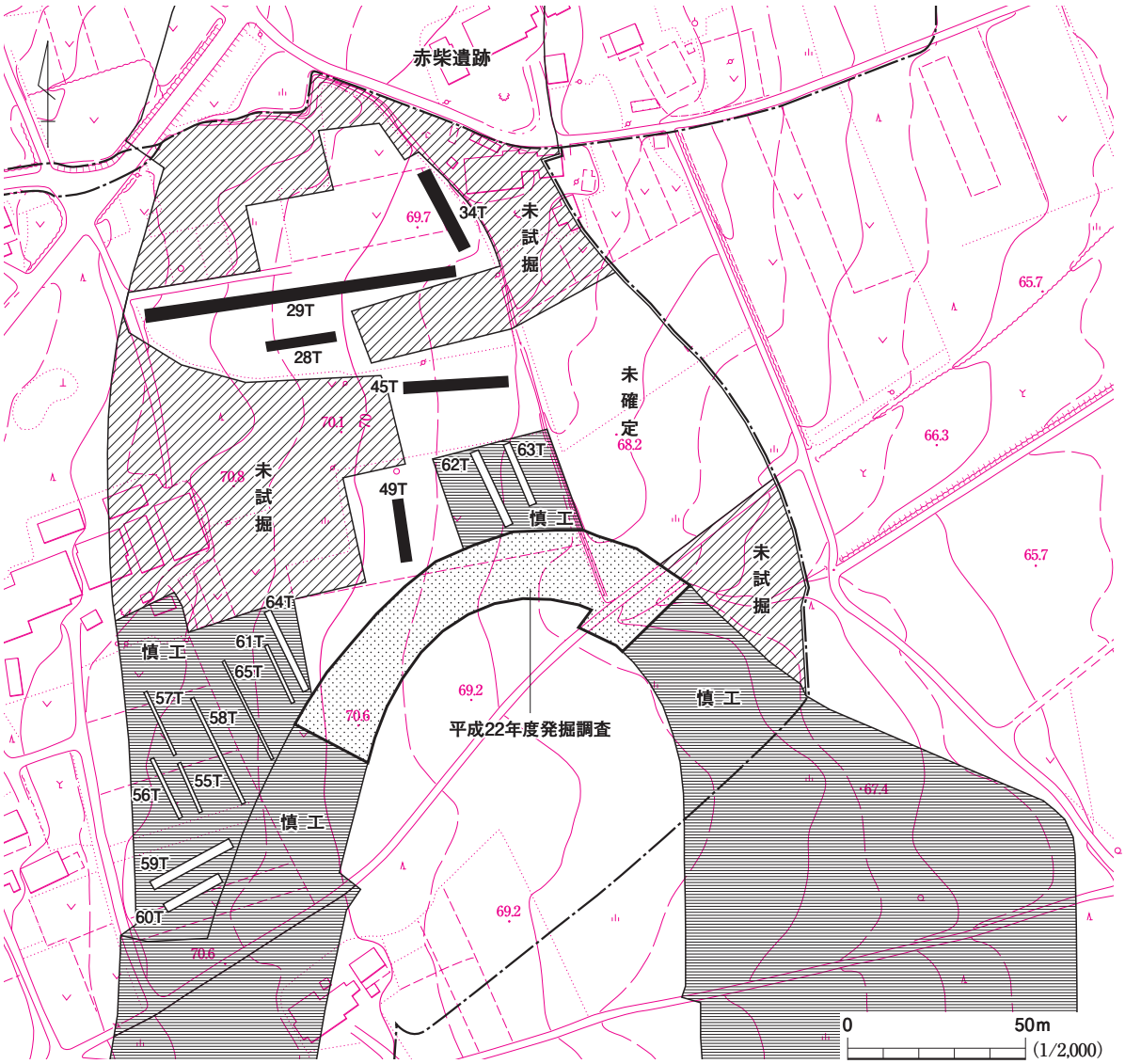


図10　赤柴前遺跡トレンチ配置図

第２節　阿武隈川右岸築堤事業予定地

本事業では，阿武隈川右岸の二本松市南・北トロミ地区内において総延長約1.4kmの堤防建設が予定されている。現在，国土交通省福島河川国道事務所が事業を進めている。トロミ地区の表面調査は，二本松市教育委員会によって昭和45年度，平成５年度に実施され，奈良時代から平安時代にかけての遺物が採集できるトロミ遺跡を確認している。

今回の築堤工事に伴う試掘調査に先立ち，トロミ遺跡周辺の地形観察と，地形改変に関する聞き取り調査を実施したところ，周知のトロミ遺跡の範囲よりもさらに南・北側にも遺構・遺物が存在する可能性が高いことが分かった。このことから，トロミ遺跡の北側隣接地を遺跡推定地Ｂ１とし，南側隣接地を遺跡推定地Ｂ２とした。今回の試掘調査はトロミ遺跡及び遺跡推定地Ｂ１を対象に実施した。

表13　二本松市所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成22年度調査		未試掘面積	平成22年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	ＮＭ－Ｂ１	32,100㎡	8,700㎡	0㎡	0㎡		鉄製品
2	トロミ遺跡	28,700㎡	5,600㎡	未定	21,600㎡	住居跡，溝跡	縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，瓦，石器，陶磁器
二本松市　計		60,800㎡	14,300㎡	0㎡	21,600㎡		

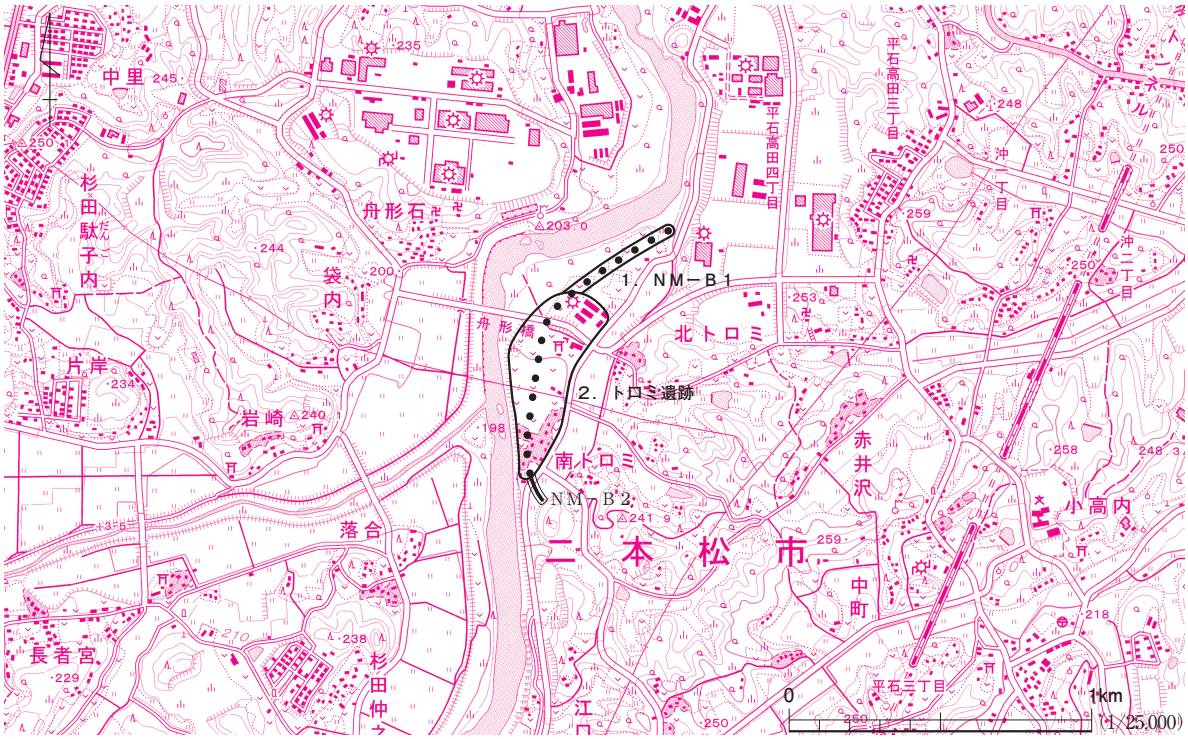


図11　二本松市の遺跡

1．NM－B１

所　　在　　地　二本松市北トロミ　　**調　査　期　間**　平成22年６月22日～８月18日
調査対象面積　8,700㎡　　**トレンチ数**　５本　　**検　出　遺　構**　な　し
保　存　面　積　0㎡　　**出　土　遺　物**　鉄製品

［概　　要］　NM－B１は，阿武隈川東岸の自然堤防上に位置する。南側にはトロミ遺跡が接している。現況は畑及び牧草地，荒地である。近年の地形整備で大量の盛土がされているということで，盛土下の旧地形にトロミ遺跡が継続する可能性があり，遺跡推定地として試掘調査を実施した。今回の試掘調査は工区内の8,700㎡を対象に，トレンチ５本を設定して行った。堆積土を観察すると，地表面から1.2～4.3mの厚さの耕作土兼盛土が堆積している。北側に向かって盛土が厚くなる。その下層には，粘質土（Ⅱア～エ，カ層）と砂質土（Ⅱオ・キ層）が交互に堆積しており，間層の褐色粘質土（Ⅱカ層）には微量の炭化物が含まれている。また，さらに下層には砂層（Ⅱク・ク’層）が堆積している。これらの堆積状況から，複数回にわたる河川氾濫があったことが考えられる。

［ま　と　め］　今回の試掘調査では，複数の文化層の存在を想定し，堆積土の確認をするためトレンチは地表から3.5～５mほどの深さまで階段状に掘削した。４TのⅡク’層からは鉄製品が１点出土しているものの，時期不明であり明確な遺物包含層及び遺構は確認できなかった。このことから，今回の工区内調査範囲を含め，NM－B１については遺跡として扱わない。

2．トロミ遺跡

所　　在　　地　二本松市北トロミ・南トロミ
調査対象面積　5,600㎡　**トレンチ数**　14本
保　存　面　積　未定
調　査　期　間　平成22年６月22日～９月２日
検　出　遺　構　竪穴住居跡・溝跡・小穴
出　土　遺　物　縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦・陶磁器

6　４T竪穴住居跡・溝跡検出状況（東から）

［概　　要］　トロミ遺跡は，昭和45年度及び平成５年度に二本松市教育委員会が実施した表面調査によって土師器を採集し，集落跡として埋蔵文化財包蔵地台帳に登載した遺跡である。阿武隈川東岸の自然堤防上に位置し，現況は畑及び荒地である。今回の試掘調査は，工区内の調査可能な地点，合わせて5,600㎡を対象に，トレンチ14本を設定した。堆積土は地点によって異なり，トロミ遺跡の北側に位置する舟形橋を挟んで南北における堆積土の照合が不十分となっている。

舟形橋以北の13・14T付近では，120～130㎝の厚さで耕作土兼盛土が堆積しており，その下には粘質土（Ⅱア～エ層），砂質土（Ⅱキ層）そして最下層に砂層（Ⅱク’層）が堆積している。

舟形橋以南の範囲では，地表面から40～120㎝の深さで耕作土が見られる。その下層には砂層が複数堆積している（ⅡA～C層）。その中で５～15㎝の厚さで堆積する暗褐色砂層（ⅡB層）は遺物包含層である。砂層の下には粘質土層（ⅢA～B層）が堆積している。そのうち灰黄褐色のⅢA層からは土師器が出土し，４・９～11TのⅢA’層上面において遺構を確認した。さらに，下層は砂質土層（ⅢC・D層）とな

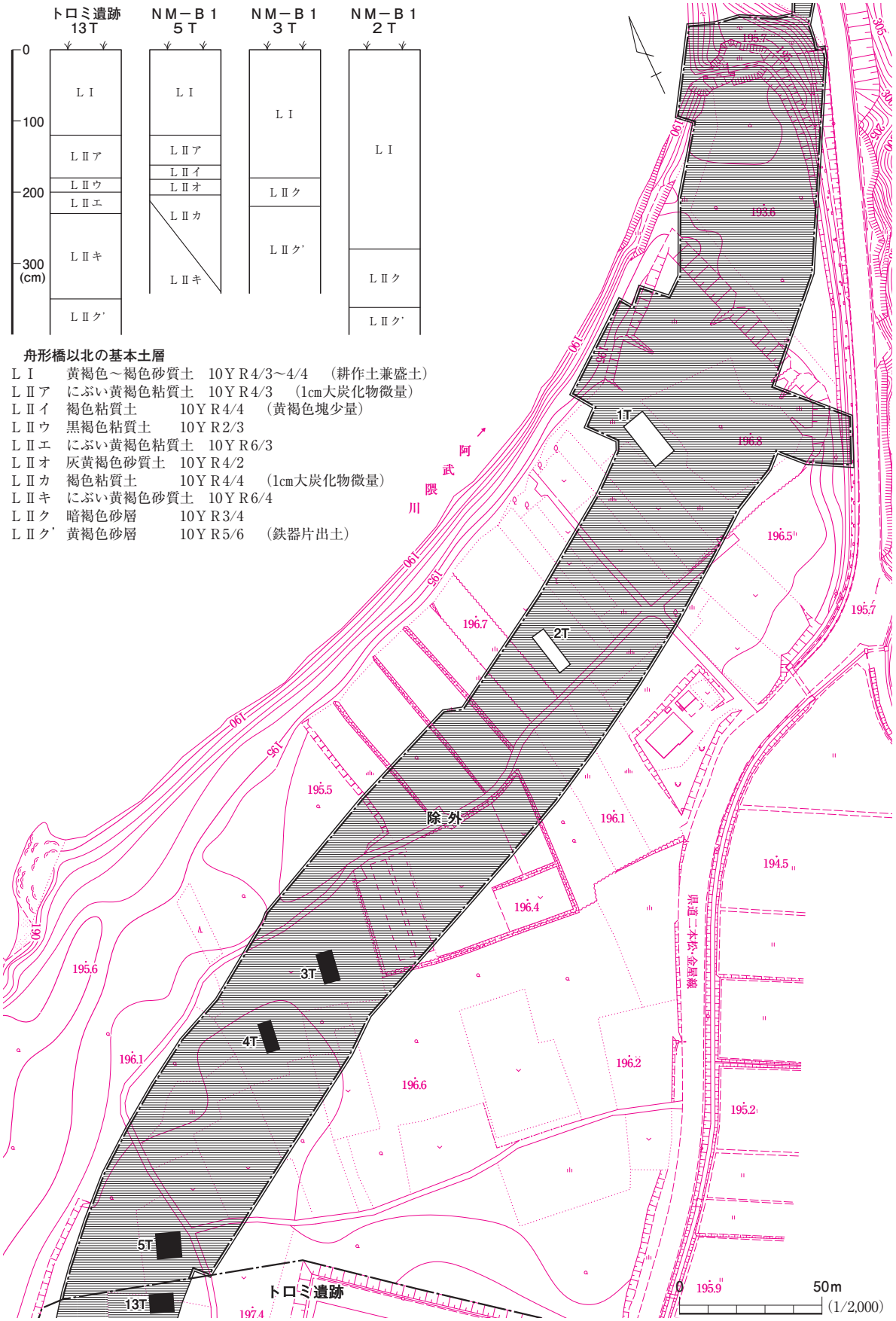


図12　ＮＨ－Ｂ１トレンチ配置図，土層柱状図

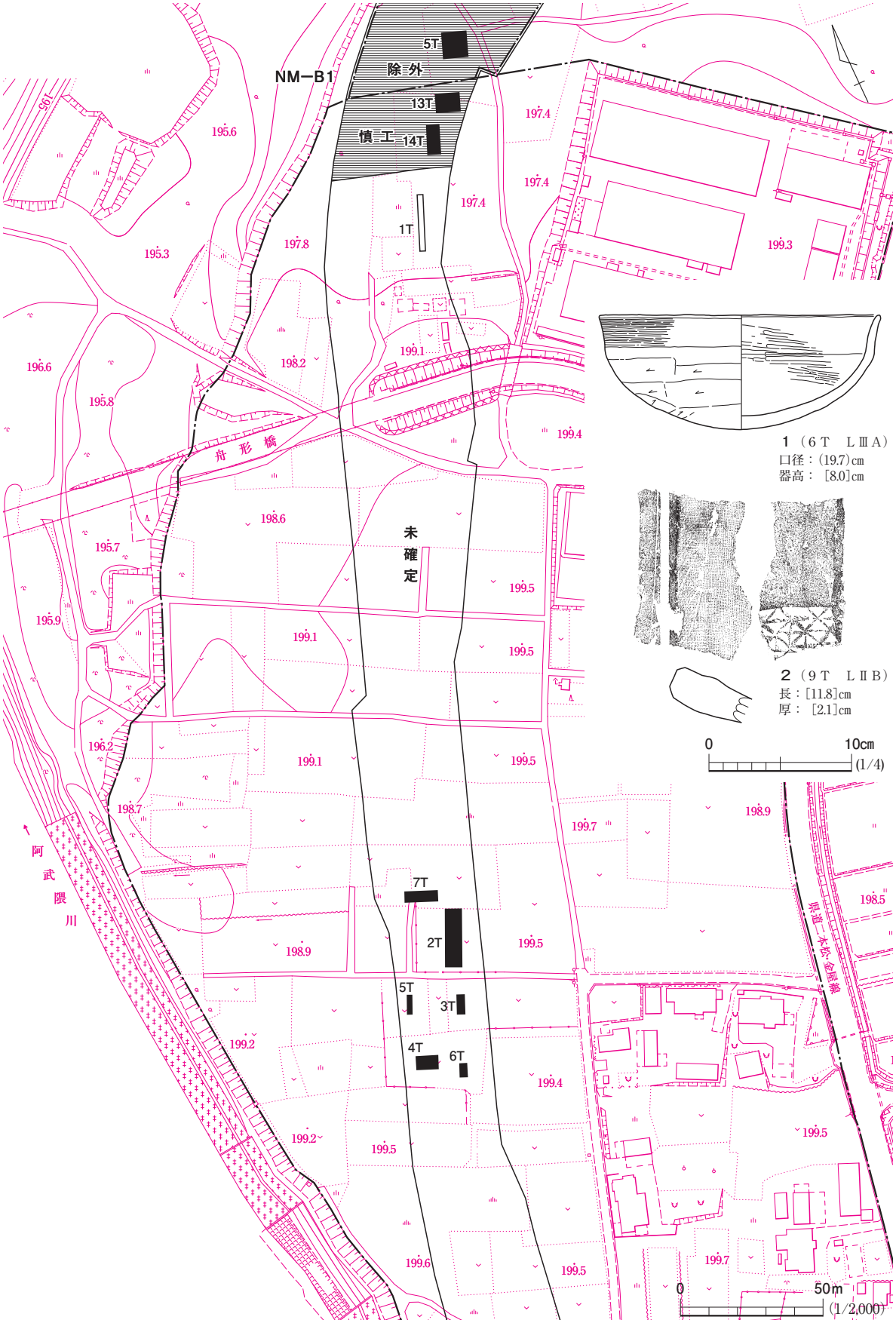
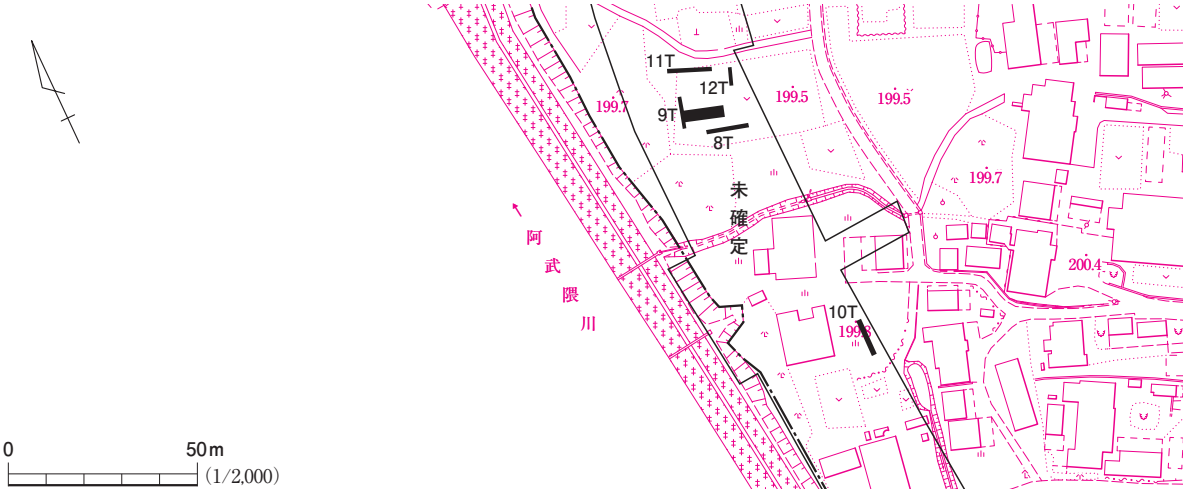
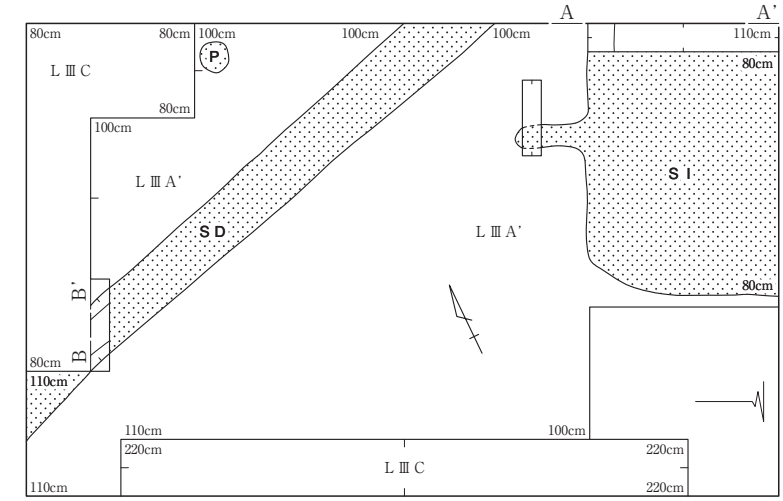
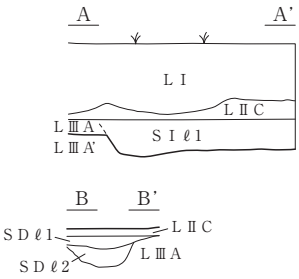


図13　トロミ遺跡トレンチ配置図，出土遺物





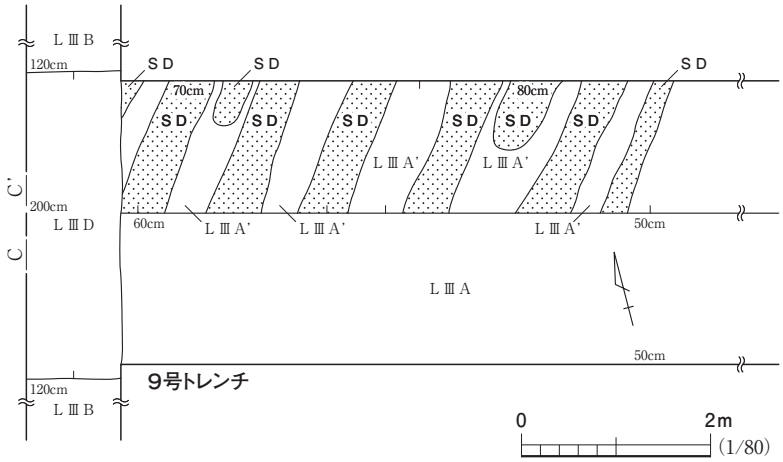
4号トレンチ



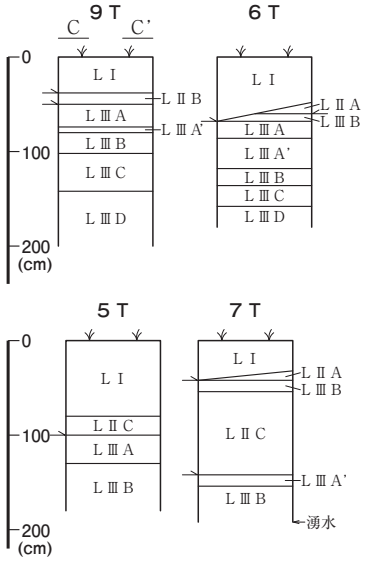
４Ｔ　住居跡堆積土
1　にぶい黄褐色砂質土　10ＹＲ4/3
（焼土粒・炭化物微量）

４Ｔ　溝跡堆積土
1　にぶい黄褐色砂質土　10ＹＲ4/3
2　暗褐色砂質土　10ＹＲ3/3

９Ｔ　溝跡堆積土
1　灰黄褐色粘質土　10ＹＲ4/2
（ＬⅢＡ'より暗色）



9号トレンチ



舟形橋以南の基本土層

ＬⅠ　暗褐色～褐色砂層　10ＹＲ3/4～4/4（表土兼耕作土）
ＬⅡＡ　褐色砂層　10ＹＲ4/4
ＬⅡＢ　暗褐色砂層　10ＹＲ3/4　（炭化物微量。弥生土器･土師器･須恵器片少量含んだ包含層）
ＬⅡＣ　褐色砂層　10ＹＲ4/4
ＬⅢＡ　灰黄褐色粘質土　10ＹＲ4/2　（土器片微量）
ＬⅢＡ'　灰黄褐色粘質土　10ＹＲ5/2　（古代遺構検出面。土器片微量）
ＬⅢＢ　黒褐色粘質土　10ＹＲ2/2　（炭化物微量）
ＬⅢＣ　灰黄褐色砂質土　10ＹＲ4/2　（湧水あり）
ＬⅢＤ　黒褐色砂質土　10ＹＲ3/2　（湧水あり）

図14　トロミ遺跡トレンチ配置図，検出遺構，土層柱状図

表14　トロミ遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物（時期）	トレンチ番号	検出遺構 種類（時代）	検出遺構 確認面までの深さ	検出遺構 遺構内掘込み	出土遺物（時期）
２Ｔ				土師器	９Ｔ	溝跡	80cm	○	縄文土器，土師器，陶磁器，瓦
３Ｔ				土師器	10Ｔ				陶磁器
４Ｔ	住居跡（古代），溝跡，柱穴	100cm	○	土師器，須恵器	11Ｔ	溝跡	90cm	○	土師器，須恵器，弥生土器
５Ｔ				土師器，須恵器	12Ｔ	溝跡	90cm	○	陶磁器
６Ｔ				土師器	13Ｔ				土師器
７Ｔ				土師器，陶磁器	14Ｔ				鉄製品
８Ｔ				土師器，陶磁器，石器					

り，地表から190cm程で湧水する。

［遺構・遺物］　遺構は，調査区中央の４Ｔで竪穴住居跡１軒，溝跡１条，小穴１基を検出した。また，遺物包含層としてⅡＢ層と，遺構検出面としたⅢＡ’層直上にあるⅢＡ層の２層を確認した。調査区南側の９・１０・11Ｔでは畑等の畝跡と思われる溝跡を合わせて15条確認した。この付近においては，ⅡＢ層が遺物包含層と考えられる。

遺物は，遺物包含層のⅡＢ・ⅢＡ層及び耕作土・表土のⅠ層から出土した。奈良・平安時代の土師器・須恵器が多く，他に縄文土器，弥生土器，陶磁器，石器が少量と，古代の平瓦が１点出土している。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，調査区中央部分，南側の遺構・遺物を確認したトレンチを中心に保存する必要があるが，今回の調査対象範囲がごく一部分であることから，保存面積については未試掘範囲の調査結果が出た段階で判断する。

第３節　一般国道118号バイパス建設予定地

一般国道118号バイパスの予定路線は，鏡石町蒲之沢町・深内町から須賀川市稲・松塚地区までの総延長約４kmにおよぶ。現在，福島県県中建設事務所によって事業が進められている。福島県教育委員会は一般国道118号バイパスに関連する表面調査を平成20年度に実施し，鏡石町では２箇所の周知の遺跡の遺跡範囲を拡張し，新発見の遺跡推定地を４箇所確認している（『福島県内遺跡分布調査報告15』）。

今年度の試掘調査は，本線から町道鏡田13号線へつながる側道部分にある遺跡推定地ＫＩ－Ｂ２を対象とした。

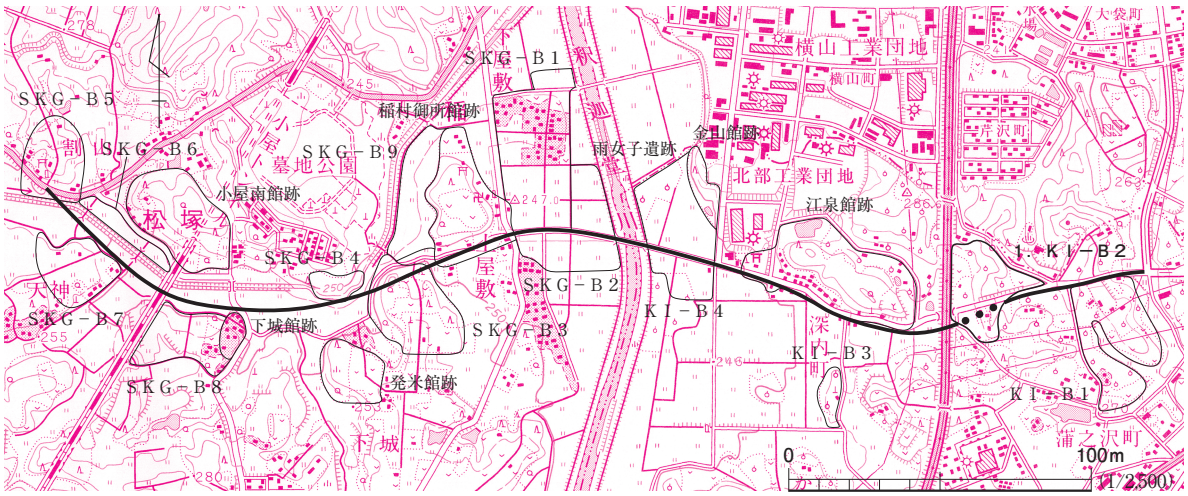


図15　鏡石町・須賀川市の遺跡

表15　鏡石町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成22年度調査		未試掘面積	平成22年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	ＫＩ－Ｂ２	3,500㎡	3,500㎡	0㎡	0㎡		
鏡石町　計		3,500㎡	3,500㎡	0㎡	0㎡		

１．ＫＩ－Ｂ２

所　在　地　岩瀬郡鏡石町蒲之沢町　　**調査期間**　平成22年12月14日～16日

調査対象面積　2,400㎡　　**トレンチ数**　11本　　**検出遺構**　な　し

保存面積　0㎡　　**出土遺物**　な　し

［概　　要］　ＫＩ－Ｂ２は，平成20年度の表面調査で土師器を採集したものの，周辺地形の改変が著しいため遺跡推定地とした。釈迦堂川東岸の低丘陵上に位置し，すぐ西側には東北自動車道が通っている。現況は果樹園である。今回の試掘調査は，3,500㎡を対象に，トレンチ５本を設定していった。堆積土を観察すると，いずれも地表から40～110㎝は表土（盛土）が堆積し，その下に基盤層となる黄橙色粘質土（Ⅲ層）が堆積する。基盤層は整地のため掘削されて失われている部分も多く，一部では盛土直下でさらに下層の灰白色粘土（Ⅳ層）が確認できる。

［ま　と　め］　調査の結果，果樹園造成のための旧地形の改変が激しく，遺構・遺物は確認できなかった。このことから，今回の工区内調査範囲については，遺跡として扱わない。

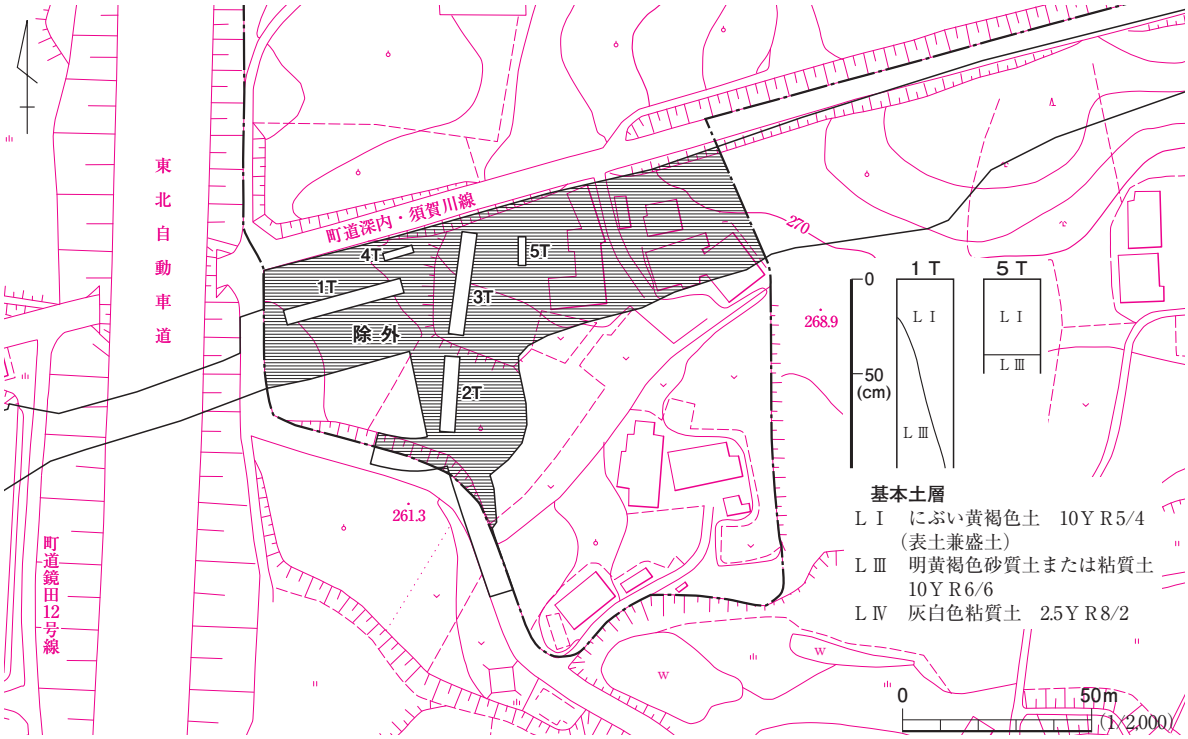


図16　ＫＩ－Ｂ２トレンチ配置図，土層柱状図

第４節　阿賀川狭窄部改修事業予定地

阿賀川下流域は，連続する狭窄部が洪水の流下を阻害するため，出水のたびに周辺地域では内水被害が多く発生する。阿賀川狭窄部事業は，これらの被害を防ぐ目的で，河道を掘削し護岸工事を行う事業である。この事業に伴い，喜多方市教育委員会では平成21年度に周知の遺跡である小田高原（おだこはら）遺跡の試掘調査を実施した（『喜多方市文化財調査報告書第８集』）。その結果，阿賀川の河川敷を含め周知の遺跡範囲より広範囲に変更となった。

今年度，小田高原遺跡の発掘調査の実施に伴い，工事区内の伐採が進められた際，保存範囲の北側に連続する地形を確認した。さらに遺跡範囲が広がることが予測されたため，工事区北端の範囲を遺跡推定地として試掘調査を実施した。

表16　喜多方市所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　積	平成22年度調査		未試掘面積	平成22年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	ＫＴ－Ｂ１	3,200㎡	3,200㎡	0㎡	0㎡		
喜多方市　計		3,200㎡	3,200㎡	0㎡	0㎡		

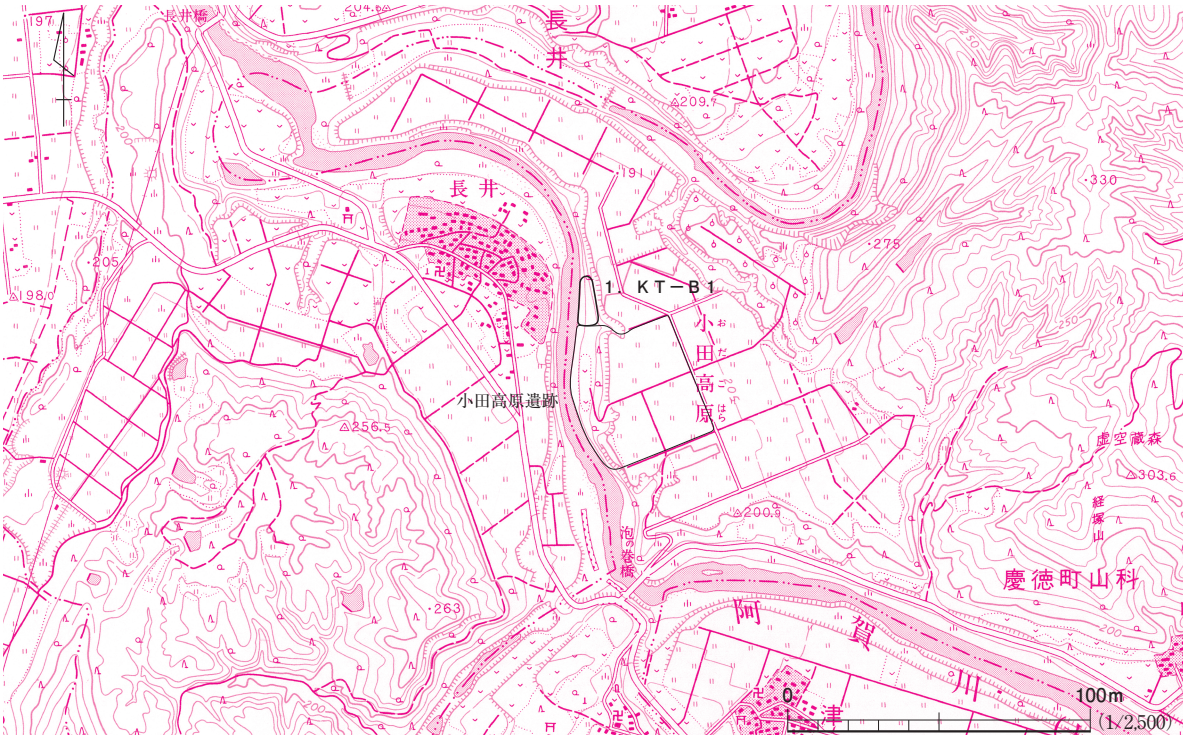


図17　喜多方市の遺跡

１．ＫＴ－Ｂ１

所　在　地　喜多方市慶徳町山科字古屋敷　　**調査期間**　平成22年10月14日～22日

調査対象面積　3,200㎡　　**トレンチ数**　３本　　**検出遺構**　な　し

保存面積　0㎡　　**出土遺物**　な　し

［概　　要］ＫＴ－Ｂ１は，阿賀川東岸の沖積地に立地し，東側には段丘の急斜面がせまっている。小谷

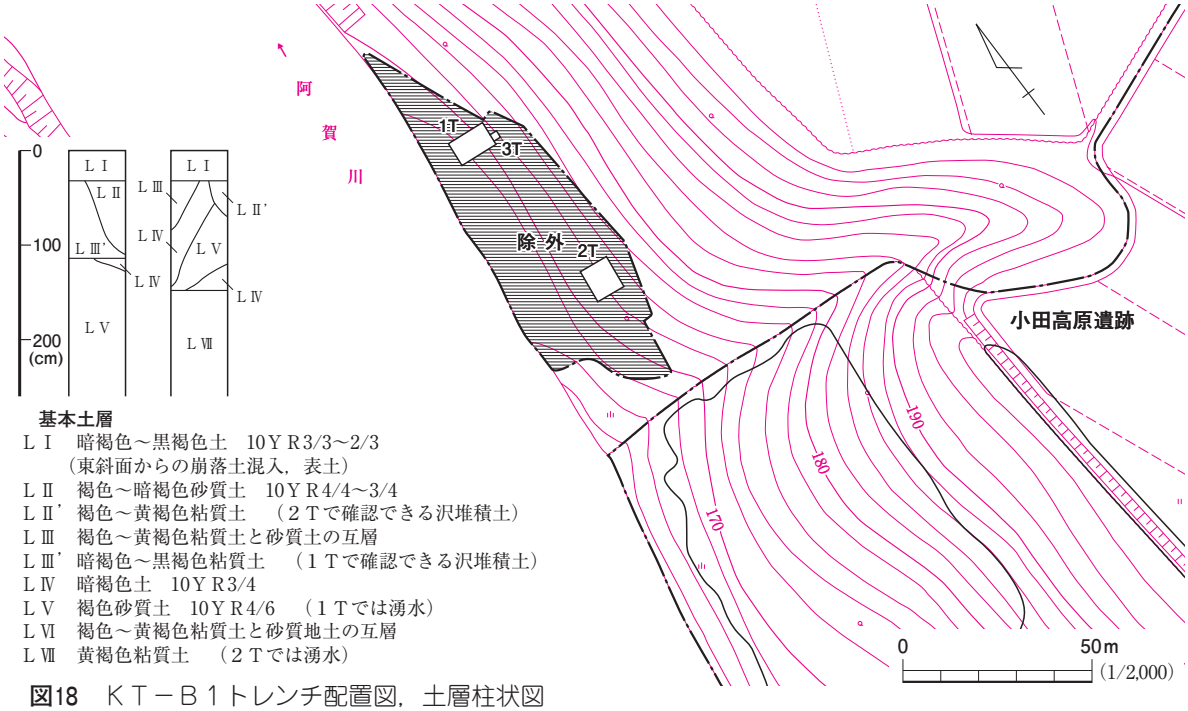


図18　ＫＴ－Ｂ１トレンチ配置図，土層柱状図

を挟んですぐ南側には小田高原遺跡があり，現況は山林である。調査区中央部分は湿地帯となっている。今回の試掘調査は，3,200㎡を対象に，トレンチ３本を設定した。堆積土を観察すると，急斜面よりに設定した１Ｔでは，地表から50㎝の深さで河川の氾濫に伴う砂層（Ⅱ層）を確認し，その下層に湿地帯につながる水性堆積の砂質土（Ⅲ'層），段丘斜面からの崩落土層（Ⅳ・Ⅴ層）を確認した。崩落土層は２ｍほど堆積しており，その下層で基盤層となる灰色・橙色の粘土層（Ⅵ層）を確認した。河川よりに設定した２Ｔでは，地表から30㎝の深さで，湿地帯につながる水性堆積の粘質土（Ⅱ'層）を一部で確認した他，120㎝ほどの厚さで河川の氾濫に伴う砂と，水が引いた後に堆積したと思われる粘質土が交互に堆積した層（Ⅲ・Ⅳ層）を確認した。Ⅲ・Ⅳ層の堆積状況から洪水は複数回にわたって起こっていることがわかる。その下層は段丘斜面からの崩落土層（Ⅵ層）で，１ｍほど掘削した段階で湧水した。これ以下に文化層はないものと判断し掘削を中止した。

［ま　と　め］　調査の結果，段丘斜面からの崩落土と河川による堆積土が複雑に堆積していることがわかったが，遺構・遺物は確認できなった。このことから，今回の工区内調査範囲については遺跡として扱わない。

第５節　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地

会津縦貫北道路は，会津北部地域の高速交通体制を形成し，地域の産業・経済・観光資源などを有機的に結び付けることで，会津地域の活性化を図ることを目的とした事業である。平成８年度に都市計画道路として位置づけられ，平成９年度から建設省（現国土交通省）の直轄事業として進められている。喜多方市関柴町大字西勝から河沼郡湯川村を経て，会津若松市高野大字木流に至る総延長13.1㎞を測る地域高規格道路で，将来的に，北は東北中央自動車道の米沢ＩＣ（仮称）と，南は栃木西部・会津南道路（南会津～栃木県日光市）と結ばれる計画となっている。

会津縦貫北道路に関連する埋蔵文化財の調査は，平成９年度に表面調査を実施，総計24箇所の遺跡及び遺

跡推定地を確認した（『福島県内遺跡分布調査報告４』）。平成12年度から試掘調査を，平成13年度からは発掘調査を実施した。平成18年度には喜多方市内に７箇所ある遺跡・遺跡推定地の試掘調査がすべて終了している。平成22年度の試掘調査は，湯川村の１箇所について調査を行った。

表17　湯川村所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成22年度調査		未試掘面積	平成22年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	桜町遺跡	77,900㎡	1,400㎡	150㎡	1,000㎡	溝跡，柱穴	
湯川村　計		77,900㎡	1,400㎡	150㎡	1,000㎡		

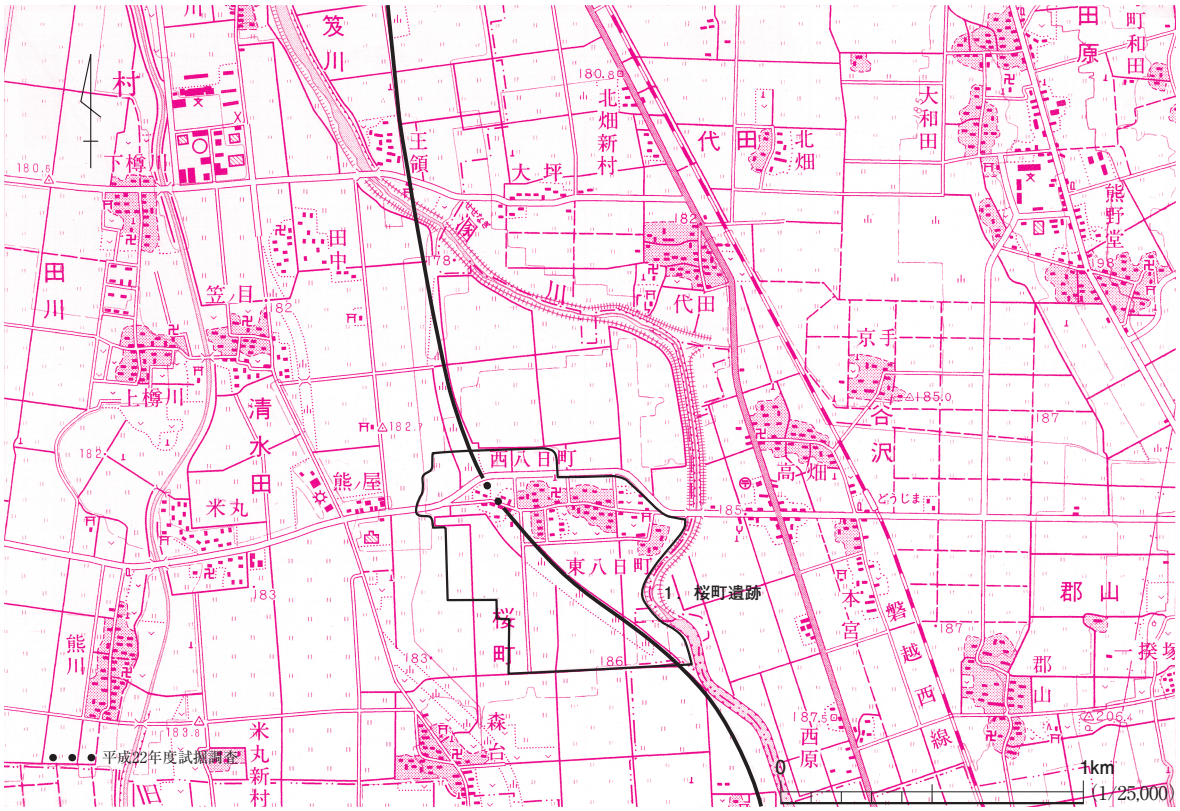


図19　湯川村の遺跡

１．桜町（さくらまち）遺跡（第５・６次調査）

所　　在　　地　河沼郡湯川村大字桜町字千苅

調査対象面積　1,400㎡　　**トレンチ数**　８本

保　存　面　積　150㎡

調　査　期　間　平成22年９月29日（第５次）

10月27日～11月11日（第６次）

検　出　遺　構　柱穴・溝跡

出　土　遺　物　な　し

7　桜町遺跡南側全景（北から）

［概　　要］　桜町遺跡は，平成９年度に実施した表面調査で，縄文・古墳・奈良・平安時代の集落跡として確認した遺跡である（『福島県内遺跡分布調査報告４』）。阿賀川支流の溷川西岸の沖積地に立地し，現況は水田と荒地である。工区内における遺跡の面積は76,500㎡，うち46,500㎡の試掘調査を平成15年度に実施し，8,200㎡を保存対象面積とした。平成16年度に25,800㎡，平成21年度に2,500㎡の試掘調査を行い，試掘

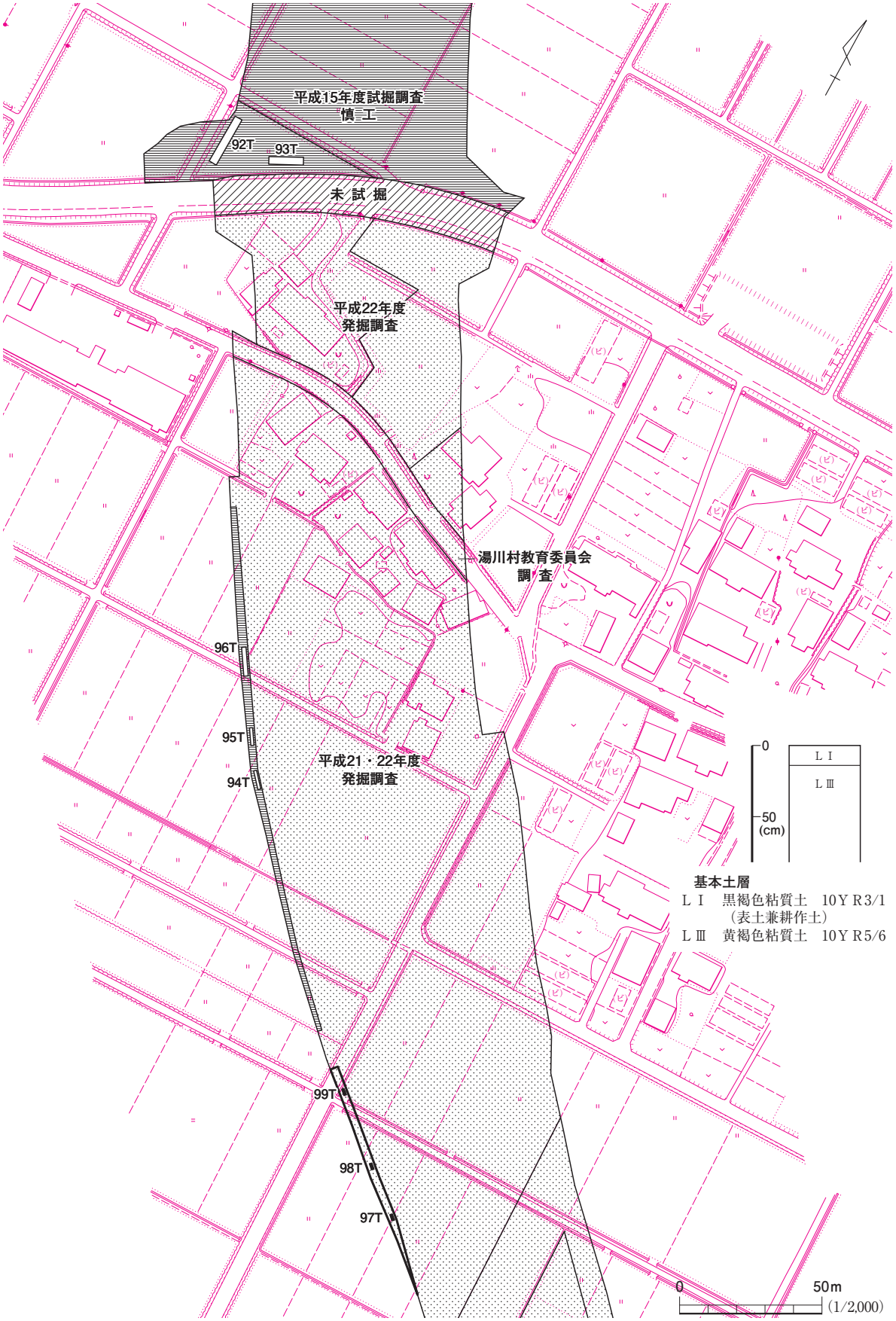


図20　桜町遺跡トレンチ配置図，土層柱状図

表18　桜町遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物（時期）
	種類（時代）	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
97Ｔ	柱穴	15㎝	×	
98Ｔ	柱穴	15㎝	×	
99Ｔ	溝跡	15㎝	×	

調査範囲内すべてを保存対象面積とした（『福島県内遺跡分布調査報告10・15』）。平成16年から平成22年度までに３回の発掘調査を実施し，弥生時代末期の周溝墓，竪穴住居跡，平安時代の掘立柱建物跡などを検出している。

平成22年度の試掘調査は，第５次調査と第６次調査の２回にわたって実施した。第５次調査は，今年度の発掘調査の過程で，平成15年度に保存対象外とした範囲に遺構・遺物包含層が北西に延びる可能性が予測されたため，県道北側の1,000㎡を対象に２本のトレンチを設定した。堆積土は，表土を30㎝下げたところで，基盤層の明黄褐色粘土（Ⅲ層）を確認した。

第６次調査は，工事区西縁の水路工事に伴い，平成22年度の発掘調査の結果，西側の工事範囲に延びることが予測されたため400㎡について，６本のトレンチを設定して行った。堆積土は，いずれも表土が10～15㎝堆積しており，94～96Ｔではその下層に盛土，さらに下層に砂層を確認した。97～99Ｔでは表土直下で基盤層の明黄褐色粘土層（Ⅲ層）を確認した。

［遺構・遺物］　第６次調査において，97・98Ｔで掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴を，99Ｔで溝跡を検出した。いずれもⅢ層上面で確認した。遺物は出土しなかった。

［ま　と　め］　試掘調査の結果，第６次調査の97～99Ｔ付近は，圃場整備による削平を受けて遺物包含層は失われていたが，遺構を確認した。そのため農道から南側150㎡については保存する必要がある。

第５次調査の範囲（1,000㎡）と，第６次調査の94～96Ｔ付近（250㎡）については，旧地形の改変等もあり，遺構・遺物は確認できなかった。したがって，これらの範囲については，保存する必要はないが，工事等の実施にあたっては慎重に行う必要がある。

第６節一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地

一般国道289号の南会津郡下郷町～白河市区間は，那須火山帯に位置する急峻な甲子峠に阻まれ，交通不能区間となっていた。これを解消すべく甲子道路が建設され，平成20年に交通不能区間が開通した。南倉沢バイパスはこの甲子道路の一部であり，下郷町大松川から同南倉沢に至る総長約6.2㎞の２車線道路である。現在，福島県土木部南会津建設事務所が事業を進めており，一部の区間では工事に着手している。福島県教育委員会は一般国道289号南倉沢バイパスに関連する表面調査を平成13年度に実施し，周知の遺跡２遺跡と新発見の遺跡推定地を７箇所確認し，同年度内に試掘調査を実施した（『福島県内遺跡分布調査報告８』）。

平成22年度は，未試掘部分のあった１箇所の遺跡推定地について試掘調査を実施した。

１．ＣＧ－Ｂ７

所　在　地　南会津郡下郷町南倉沢字猪馬場平　　**調査期間**　平成22年９月27日～10月１日
調査対象面積　1,800㎡　　**トレンチ数**　３本　　**検出遺構**　な　し
保存面積　0㎡　　**出土遺物**　な　し

［概　　要］　ＣＧ－Ｂ７は，平成13年度に確認し，試掘調査を実施した遺跡推定地である。観音川右岸の標高920～960ｍの段丘上面に広がる平坦面に立地する。現況は山林である。今回の試掘調査は未試掘部分の

1,800㎡を対象に，トレンチ５本を設定して行った。堆積土を観察すると，いずれのトレンチでも地表から20～30㎝の深さで大きな礫を含む層（Ⅱ～Ⅳ層）が確認できる。これらは北側の丘陵からの崩落土及び転石と考えられ，35～60㎝の厚さで堆積する。その下層に基盤層である黄褐色砂質土（Ⅴ層）を確認した。

［ま　と　め］　調査の結果，遺構・遺物は確認できなかった。このことから，ＣＧ－Ｂ７の平成22年度試掘調査範囲については，遺跡として扱わない。平成13年度の試掘調査で土坑を確認した範囲700㎡については保存が必要である。

表19　下郷町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺　跡　名	遺跡工区内面　　積	平成22年度調査		未試掘面積	平成22年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	ＣＧ－Ｂ７	28,300㎡	1,800㎡	0㎡	0㎡		
下郷町　計		28,300㎡	1,800㎡	0㎡	0㎡		

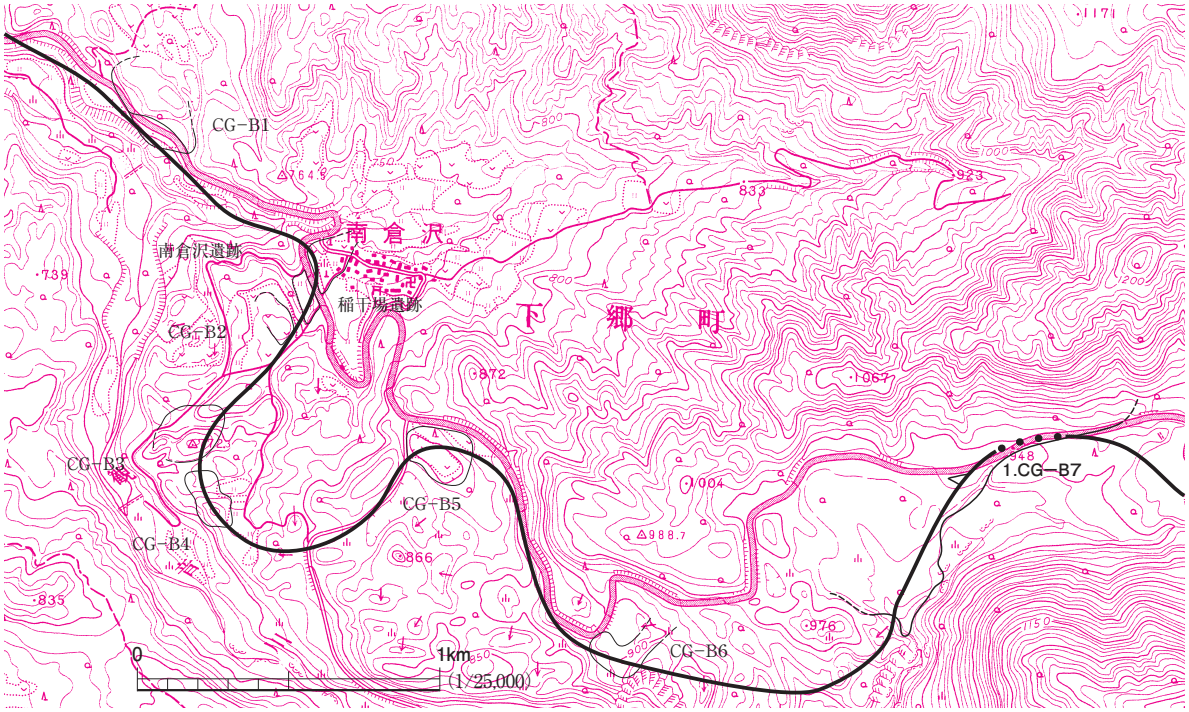


図21　下郷町の遺跡

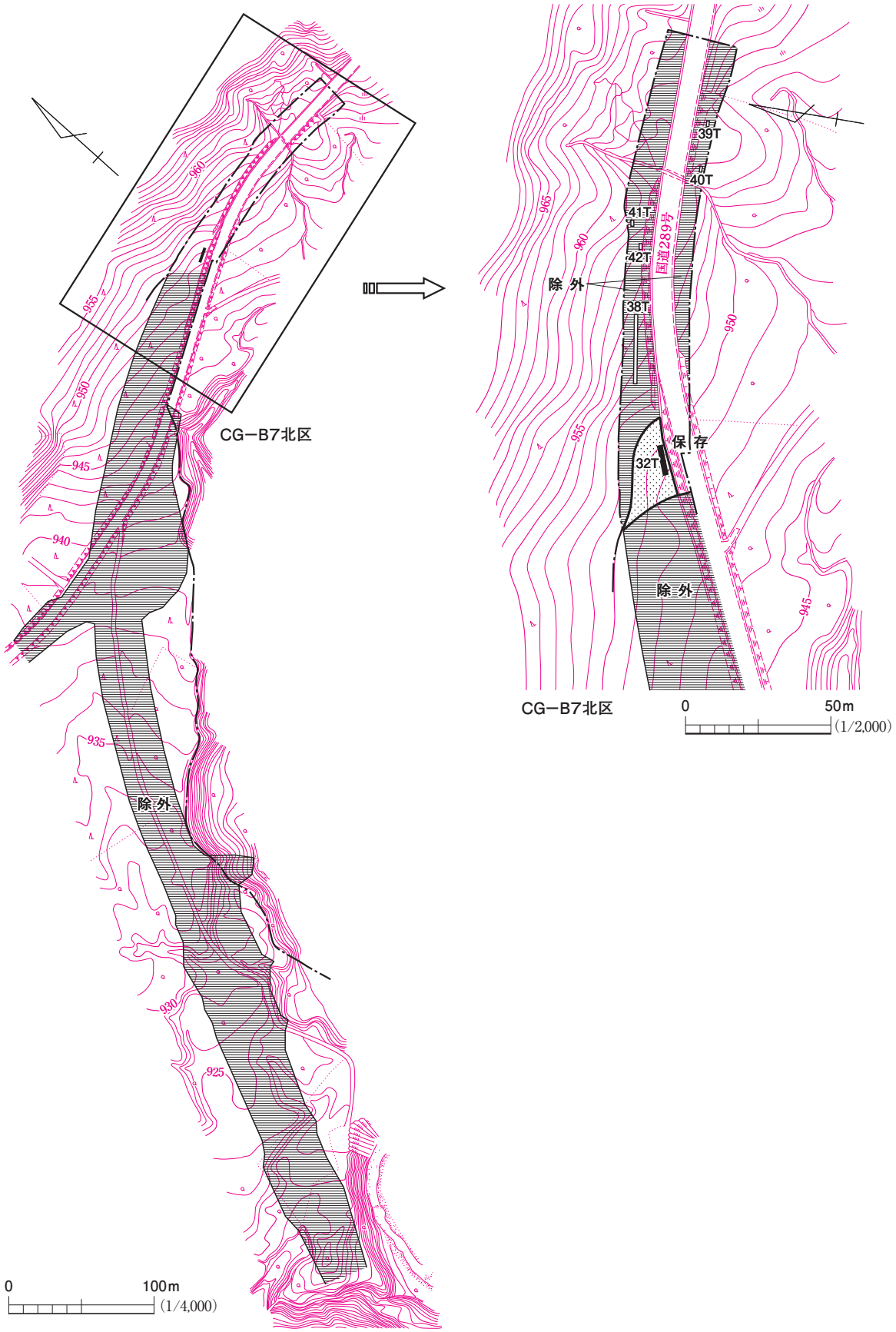


図22　ＣＧ－Ｂ７トレンチ配置図

第３章　ま　　と　　め

平成22年度の福島県内遺跡分布調査は，試掘調査６事業（６市町村：８遺跡,6遺跡推定地の計14か所：91,000㎡）を平成22年４月中旬から平成22年12月中旬までの期間で実施した。調査の結果，５か所（20,250㎡：22.2％）が要保存対象として確定した。

なお，平成22年度の試掘調査で保存範囲が確定した常磐自動車道関連の大槻遺跡（1,000㎡）については試掘調査終了後，発掘調査を実施した。

以下，各事業の平成22年度までの試掘調査成果を本章表20～26にまとめたが，各表・本文中で掲示している調査対象面積，保存面積，未試掘面積等は，今後の工事計画変更等により，変動する可能性がある。

１　常磐自動車道建設予定地

常磐自動車道関連の試掘調査は，平成21年度までにいわき工区（浪江町・双葉町・大熊町）と，相馬工区の南相馬市・相馬市分が終了している。平成22年度の試掘調査は，相馬工区の新地町の遺跡・遺跡推定地計８箇所を対象に実施することとなった。うち，遺跡推定地１箇所（ＳＴ－Ｂ⑧）は本年度新たに追加したものである。

表20　常磐自動車道関連試掘調査対象遺跡成果一覧（新地町）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	新田（ST－A19）			○	12,900㎡	—	—㎡	—	12,900㎡	－㎡	
2	朴木原（ST－A18）	○			6,900㎡	H22	6,900㎡	（３頁）	0㎡	1,700㎡	
3	ＳＴ－Ｂ⑧	○			1,100㎡	H22	1,100㎡	（５頁）	0㎡	1,100㎡	朴木原遺跡に含める。
4	ＳＴ－Ｂ⑥	○			1,600㎡	H21	1,400㎡	『県内分17』	200㎡	0㎡	未試掘200㎡含め終了。
5	ＳＴ－Ｂ⑦		○		8,500㎡	H22	2,400㎡	（７頁）	6,100㎡	0㎡	
6	ＳＴ－Ｂ⑤			○	8,000㎡	—	—㎡	—	8,000㎡	－㎡	
7	ＳＴ－Ｂ④			○	8,200㎡	—	—㎡	—	8,200㎡	－㎡	
8	北狼沢Ａ		○		16,200㎡	H21 H22	5,000㎡ 7,400㎡	『県内分17』 （７頁）	3,800㎡	3,500㎡ 0㎡	H22（2,800㎡）発掘実施。
9	南狼沢Ａ			○	6,700㎡	—	—㎡	—	6,700㎡	－㎡	
10	ＳＴ－Ｂ③			○	8,100㎡	—	—㎡	—	8,100㎡	－㎡	
11	ＳＴ－Ｂ②			○	3,500㎡	—	—㎡	—	3,500㎡	－㎡	
12	南狼沢（ST－A10）		○		8,000㎡	H22	5,000㎡	（10頁）	3,000㎡	0㎡	
13	鈴山（ST－A９）			○	7,200㎡	—	—㎡	—	7,200㎡	－㎡	
14	大槻（ST－A８）		○		32,100㎡	H21 H22	7,600㎡ 17,000㎡	『県内分17』 （11頁）	7,500㎡	0㎡ 1,000㎡	H22（1,000㎡）発掘実施。
15	赤柴（ST－A７）		○		32,700㎡	H21 H22	3,000㎡ 22,600㎡	『県内分17』 （13頁）	7,100㎡	16,300㎡	
16	赤柴前 （ST－A６・B①）		○		54,800㎡	H19 H20 H21 H22	10,600㎡ 19,300㎡ 9,000㎡ 4,400㎡	『県内分14』 『県内分15』 『県内分17』 （15頁）	11,500㎡	1,000㎡ 2,500㎡ －㎡ 0㎡	H21（1,000㎡），H22（2,500㎡）発掘実施。『常磐66』 H21の保存面積はH23以降再検討。
17	鴻ノ巣	○			4,000㎡	H19	4,000㎡	『県内分14』	0㎡	3,000㎡	H21（3,000㎡）発掘実施。『常磐66』
18	駒ヶ嶺山神	○			4,000㎡	H19	4,000㎡	『県内分14』	0㎡	－㎡	
19	白子下Ｃ	○			7,100㎡	H18	7,100㎡	『県内分13』	0㎡	4,100㎡	H21（4,100㎡）発掘実施。『常磐66』
合計		6	6	7	231,600㎡	終了	137,800㎡		93,800㎡	34,200㎡	保存34,200㎡のうち，19,200㎡未発掘。
						H22	66,800㎡			20,100㎡	

［用　例］『県内分＊』→『福島県内遺跡分布調査報告＊』，（＊頁）→本報告書掲載ページ，終→終了，継→調査継続中，未→未着手　以下，共通
※遺跡・遺跡推定地は，周知の遺跡を優先させ，北から順に掲載した。

［新　地　町］　新地町では，平成21年度までに４箇所の遺跡・遺跡推定地で試掘調査が終了している。平成22年度の試掘調査は，８箇所の遺跡・遺跡推定地について実施した。試掘対象面積は66,800㎡である。このうち，保存範囲が確定された遺跡・遺跡推定地は，朴木原遺跡（1,700㎡）・ＳＴ－Ｂ⑧（1,100㎡：朴木原遺跡に含む）・大槻遺跡（1,000㎡）・赤柴遺跡（16,300㎡）の４箇所，計20,100㎡である。朴木原遺跡とＳＴ－Ｂ⑧は地形的に連続したものであり，いずれにおいても縄文時代の遺構・遺物を確認したことから，朴木原遺跡の保存対象範囲（1,700㎡）にＳＴ－Ｂ⑧（1,100㎡）を含め，計2,800㎡を朴木原遺跡の保存対象範囲とした。大槻遺跡は，縄文土器等が出土した1,000㎡を保存対象範囲とし，試掘調査終了後，発掘調査を実施した。赤柴遺跡は，平成21年度と平成22年度の試掘結果を合わせて16,300㎡を保存対象範囲とした。朴木原遺跡・ＳＴ－Ｂ⑧の試掘調査は終了し，平成22年度実施したＳＴ－Ｂ⑦・北狼沢Ａ遺跡・南狼沢遺跡・大槻遺跡・赤柴遺跡・赤柴前遺跡については継続調査となる。また，新田遺跡ほか７箇所の遺跡・遺跡推定地については未着手である。

表21　常磐自動車道関連試掘調査対象遺跡成果一覧（相馬市）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	払川	○			12,700㎡	H20	12,700㎡	『県内分15』	0㎡	800㎡	H22（800㎡）発掘実施。
2	北萱倉	○			13,700㎡	H18	13,700㎡	『県内分13』	0㎡	0㎡	
3	ＳＭ－Ｂ９	○			4,300㎡	H20	4,300㎡	『県内分15』	0㎡	0㎡	
4	南萱倉	○			1,100㎡	H19	1,100㎡	『県内分14』	0㎡	1,000㎡	H22保存範囲1,000㎡拡張し，（2,000㎡）発掘実施。
5	宿仙木Ｂ	○			16,500㎡	H17 H18	2,000㎡ 14,500㎡	『県内分12』 『県内分13』	0㎡		
6	宿仙木Ａ	○			12,700㎡	H17 H18 H20	2,100㎡ 3,500㎡ 7,100㎡	『県内分12』 『県内分13』 『県内分15』	0㎡	1,200㎡ 1,100㎡ 2,600㎡	ＳＭ－Ｂ４から名称変更。 H21（4,900㎡）発掘実施。 『常磐64』
7	小野北原	○			4,700㎡	H17	4,500㎡	『県内分12』	200㎡	0㎡	未試掘200㎡含め終了。
8	馬番沢	○			9,100㎡	H17 H18 H21	5,400㎡ 2,300㎡ 1,400㎡	『県内分12』 『県内分13』 『県内分17』	0㎡	0㎡	
9	山岸硝庫跡	○			26,900㎡	H14 H15	18,900㎡ 8,000㎡	『県内分９』 『県内分10』	0㎡	7,900㎡ 4,600㎡	H18保存700㎡拡張し，合計13,200㎡になる。 H15（7,900㎡）・H18（5,300㎡）発掘実施。 『常磐48』
10	明神	○			15,300㎡	H15 H16	13,900㎡ 900㎡	『県内分10』 『県内分11』	500㎡	3,100㎡ 900㎡	H16（2,000㎡），H17（2,000㎡）発掘実施。 未試掘500㎡含め終了。『常磐42』
11	台畑	○			10,100㎡	H15	10,100㎡	『県内分10』	0㎡	0㎡	
12	原	○			6,800㎡	H15	5,300㎡	『県内分10』	1,500㎡	0㎡	未試掘1,500㎡含め終了。
13	西原	○			13,200㎡	H15	13,200㎡	『県内分10』	0㎡	7,900㎡	H18（2,700㎡）・H20（5,200㎡）発掘実施。 『常磐64』
14	金草Ａ	○			5,000㎡	H15	5,000㎡	『県内分10』	0㎡	0㎡	
15	大沢口窯跡	○			9,800㎡	H16	9,800㎡	『県内分11』	0㎡	0㎡	
16	山田	○			11,800㎡	H14 H15	8,500㎡ 3,300㎡	『県内分９』 『県内分10』	0㎡	0㎡ 1,800㎡	H15（1,800㎡）発掘実施。『常磐38』
17	焼切Ｂ	○			10,200㎡	H14 H15	6,700㎡ 3,500㎡	『県内分９』 『県内分10』	0㎡	0㎡	
18	焼切	○			4,600㎡	H14 H15	1,100㎡ 3,500㎡	『県内分９』 『県内分10』	0㎡	0㎡	
19	ＳＭ－Ｂ７	○			2,000㎡	H19	2,000㎡	『県内分14』	0㎡	0㎡	
20	ＳＭ－Ｂ８	○			2,500㎡	H19	2,500㎡	『県内分14』	0㎡	0㎡	
21	ＳＭ－Ｂ６	○			5,500㎡	H19	5,500㎡	『県内分14』	0㎡	0㎡	
22	ＳＭ－Ｂ５	○			4,200㎡	H17	4,200㎡	『県内分12』	0㎡	0㎡	
23	ＳＭ－Ｂ３	○			15,200㎡	H18	15,200㎡	『県内分13』	0㎡	0㎡	
24	ＳＭ－Ｂ２	○			18,400㎡	H16	18,400㎡	『県内分11』	0㎡	0㎡	
25	ＳＭ－Ｂ１	○			1,600㎡	H16	1,600㎡	『県内分11』	0㎡	0㎡	
合計		25	0	0	237,900㎡	終了	235,700㎡		2,200㎡	32,900㎡	保存32,900㎡の**発掘終了。**
						H22	0㎡			0㎡	

［相　馬　市］　相馬市の試掘調査は，平成14年度から実施し（ＳＭ－Ａ15除外），平成22年度までに24箇所の遺跡・遺跡推定地が終了し，32,900㎡が工区内保存対象面積となった（表21）。昨年度で相馬市内の試掘調査箇所は終了した。なお，工区内保存対象面積のうち，南萱倉遺跡遺跡（2,000㎡），払川遺跡（800㎡）を対象として，平成22年度発掘調査を実施している。

２　阿武隈川右岸築堤事業予定地

阿武隈川右岸築堤工事は二本松市のトロミ地区を対象に工事計画が進められている。昭和45年度，平成５年度に二本松市教育委員会によって実施された表面調査の結果を基に，周知の遺跡１箇所（トロミ遺跡）と新たに遺跡推定地２箇所（ＮＨ－Ｂ１・２）を工区内に設定し，平成22年度から試掘調査を開始した。平成22年度の試掘調査は，2箇所の遺跡・遺跡推定地を対象に実施することとなった。

［二本松市］　平成22年度の試掘調査は，ＮＨ－Ｂ１・トロミ遺跡の２箇所について行った。試掘対象面積はＮＨ－Ｂ１が8,700㎡，トロミ遺跡が4,600㎡の計13,300㎡である。ＮＨ－Ｂ１は遺物が希薄で遺構が確認できなかったことから，未試掘範囲も含めて工区内対象面積27,100㎡すべてを遺跡として扱わない。トロミ遺跡については，土師器を中心とする遺物，竪穴住居跡等の遺構を確認したことから保存が必要となるが，保存対象面積については今後の調査成果等を踏まえて確定することとなった。

表22　阿武隈川右岸築堤事業関連試掘調査対象遺跡成果一覧（二本松市）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	ＮＨ－Ｂ１	○			32,100㎡	H22	8,700㎡	(18頁)	23,400㎡	0㎡	未試掘面積も含め終了
2	トロミ		○		28,700㎡	H22	5,600㎡	(18頁)	23,100㎡	－㎡	保存対象面積はH23以降再検討
3	ＮＨ－Ｂ２			○	5,300㎡	―	－㎡	―	6,900㎡	－㎡	
合計		1	1	1	66,100㎡	終了	14,300㎡		0,000㎡	－㎡	
						H22	14,300㎡			－㎡	

表23　一般国道118号バイパス関連試掘調査対象遺跡成果一覧（鏡石町・須賀川市）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	江泉館跡（深内板碑群）			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
2	ＫＩ－Ｂ１			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
3	ＫＩ－Ｂ２	○			3,500㎡	H22	3,500㎡	(22頁)	0㎡	0㎡	
4	ＫＩ－Ｂ４			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
鏡石町　合計		1	0	3	3,500㎡	終了	3,500㎡		0㎡	0㎡	
						H22	3,500㎡				
5	雨女子遺跡			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
6	稲村御所館跡			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
7	下城館跡			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
8	ＳＫＧ－Ｂ１			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
9	ＳＫＧ－Ｂ２			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
10	ＳＫＧ－Ｂ３			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
11	ＳＫＧ－Ｂ４			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
12	ＳＫＧ－Ｂ５			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
13	ＳＫＧ－Ｂ７			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
14	ＳＫＧ－Ｂ８			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
15	ＳＫＧ－Ｂ９			○	－㎡	―	－㎡	－	－㎡	－㎡	
須賀川市　合計		0	0	11	－㎡		－㎡		－㎡	－㎡	
合計		1	0	14	3,500㎡	終了	3,500㎡		－㎡	－㎡	

※　試掘対象面積・未試掘面積等は，工事計画等により変更される。

３　一般国道118号バイパス建設予定地

平成21年度に須賀川市（稲・松塚地区），岩瀬郡鏡石町（蒲之沢町・深内町地区）を対象に工区内の表面調査を行い，６箇所の周知の遺跡の他，13箇所の遺跡推定地を発見した。平成22年度から試掘調査を開始することとなり，鏡石町の遺跡推定地１箇所について実施した。

［鏡　石　町］　平成22年度の試掘調査は，遺跡推定地ＫＩ－Ｂ２（3,500㎡）を対象に実施したが，遺跡として扱わないこととなった。これでＫＩ－Ｂ２の試掘調査は終了した。鏡石町内での試掘対象箇所と面積については，工事計画等により今後変更される。

４　阿賀川狭窄部改修事業予定地

阿賀川狭窄部改修事業関連の試掘調査は，平成21年に喜多方市教育委員会が周知の遺跡である小田高原遺跡について実施した。これにより遺跡範囲が拡張となり，平成22年には発掘調査を実施した。工事等の進捗に伴い工区内の伐採が実施された結果，工区から継続する平坦な地形が阿賀川に沿って北上することを確認した。この範囲について遺跡推定地として，平成22年度新たに加え，試掘調査の対象とした。

［喜多方市］　平成22年度の試掘調査は，遺跡推定地ＫＴ－Ｂ１（3,200㎡）を対象に行った。その結果，今回の工区範囲については遺跡として扱わないこととなった。これにより阿賀川狭窄事業の試掘調査はすべて終了した。

５　地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地

会津縦貫北道路関連の試掘調査は，喜多方市から河沼郡湯川村にかけての遺跡・遺跡推定地12箇所を対象に，平成12年度から行っている。平成18年度には喜多方市（旧塩川町含む）の遺跡・遺跡推定地７箇所すべての試掘調査を終了した。平成20年には湯川村の５箇所についても試掘調査を終了したが，平成22年度の試掘調査では，１箇所の遺跡について追加で試掘調査を実施することとなった。

［湯　川　村］　平成22年度の試掘調査は，桜町遺跡（1,400㎡）を対象に行った。調査箇所は，桜町遺跡における平成22年度の発掘調査の結果，遺構が延びる可能性が予測された県道北側の範囲（1,000㎡）と，水路工事の予定箇所となった工区西側範囲（400㎡）の計1,400㎡を対象とした。その結果，水路工事が入る西側範囲の一部で遺構を確認し，150㎡が保存対象範囲となった。これにより，湯川村の遺跡・遺跡推定地（111,000㎡）の試掘調査は，県道部分1,000㎡を残してすべて終了した。

他に当該事業の試掘対象地は，会津若松市の遺跡・遺跡推定地６箇所（68,050㎡）が未着手となっている。

６　一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地

一般国道289号南倉沢バイパス関連の試掘調査は，平成13・14年度に南会津郡下郷町内で９箇所の遺跡・遺跡推定地について実施された。うち，７箇所については試掘調査を終了している。平成22年度の試掘調査は，遺跡推定地１箇所について実施することとなった。

［下　郷　町］　平成22年の試掘調査は，ＣＧ－Ｂ７のうち東側未試掘部分（1,800㎡）を対象に行った。その結果遺構・遺物ともに確認できず，今回の調査対象範囲については遺跡として扱わないこととなった。

これまで，平成13年度の試掘調査で土坑を確認した国道北側の部分の保存面積については，未試掘範囲の調査を考慮し改めて検討するとしていた。今回の試掘調査の結果，ＣＧ－Ｂ７については700㎡が保存の必

要があると判断した。

平成22年度でＣＧ－Ｂ７の試掘調査は終了し，当該事業ではＣＧ－Ｂ６のうち5,300㎡が試掘対象として残存している。

表24　阿賀川狭窄事業関連試掘調査対象遺跡成果一覧（喜多方市）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	ＫＴ－Ｂ１	○			3,200㎡	H22	3,200㎡	(24頁)	0㎡	0㎡	
合計		1	0	0	3,200㎡	終了	3,200㎡		0㎡	0㎡	
						H22	3,200㎡				

表25　会津縦貫北道路関連試掘調査対象遺跡成果一覧（湯川村・会津若松市）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	浜崎館跡	○			3,000㎡	H14	3,000㎡	『県内分9』	0㎡	0㎡	
2	沼ノ上	○			21,400㎡	H14 H19	11,600㎡ 9,800㎡	『県内分9』 『県内分14』	0㎡	2,900㎡	H19に3,000㎡発掘実施（範囲拡張）。『縦貫北８』
3	ＵＫ－Ｂ１	○			－㎡		－㎡		－㎡	－㎡	全範囲を沼ノ上遺跡に含めた。
4	ＵＫ－Ｂ３	○			8,700㎡	H20	8,700㎡	『県内分15』	0㎡	0㎡	
5	桜町	○			77,900㎡	H15 H16 H20 H22	46,500㎡ 26,500㎡ 2,500㎡ 1,400㎡	『県内分10』 『県内分11』 『県内分15』 (27頁)	1,000㎡	8,200㎡ 25,800㎡ 2,500㎡ 150㎡	H16（4,300㎡），H21（12,000㎡），H22（11,000㎡）発掘実施。県道部分1,000㎡含め終了。『縦貫北５・７・10』
湯川村　計		5	0	0	111,000㎡	終了	110,000㎡		1,000㎡	39,550㎡	保存39,550㎡のうち，9,350㎡未発掘
						H22	1,400㎡			150㎡	
6	ＡＷ－Ｂ１			○	8,400㎡		－㎡		8,400㎡	－㎡	
7	西木流Ｃ			○	8,800㎡		－㎡		8,800㎡	－㎡	
8	西木流Ｄ			○	19,600㎡		－㎡		19,600㎡	－㎡	
9	鶴沼Ｂ			○	2,950㎡		－㎡		2,950㎡	－㎡	
11	ＡＷ－Ｂ２			○	13,700㎡		－㎡		13,700㎡	－㎡	
10	ＡＷ－Ｂ３			○	9,700㎡		－㎡		9,700㎡	－㎡	H23追加
会津若松市　計		0	0	5	63,150㎡		－㎡		63,150㎡	－㎡	
合計		5	0	5	159,100㎡	終了	110,000㎡		49,100㎡	39,550㎡	

［用　例］『縦貫北＊』→『会津縦貫北道路遺跡調査報告＊』

表26　一般国道289号南倉沢バイパス関連試掘調査対象遺跡成果一覧（下郷町）

No.	遺跡名	試掘調査			試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終	継	未		年度	面積	報告書			
1	南倉沢	○			4,300㎡	H13	4,300㎡	『県内分8』	0㎡	3,100㎡	H14（3,100㎡）発掘実施。『南倉沢１』
2	稲干場	○			8,000㎡	H13	8,000㎡	『県内分8』	0㎡	6,200㎡	H14（6,700㎡）発掘実施。『南倉沢１』
3	ＣＧ－Ｂ１	○			5,800㎡	H13	5,800㎡	『県内分8』	0㎡	0㎡	
4	ＣＧ－Ｂ２	○			3,800㎡	H13	3,800㎡	『県内分8』	0㎡	0㎡	
5	ＣＧ－Ｂ３	○			9,300㎡	H13	9,300㎡	『県内分8』	0㎡	0㎡	
6	ＣＧ－Ｂ４	○			7,600㎡	H13	7,600㎡	『県内分8』	0㎡	0㎡	
7	CG-B5（木賊遺跡）	○			31,200㎡	H13 H14	2,900㎡ 28,300㎡	『県内分8』 『県内分9』	0㎡	10,500㎡	H15（10,500㎡）発掘実施。『南倉沢２』
8	ＣＧ－Ｂ６		○		8,900㎡	H13	3,600㎡	『県内分8』	5,300㎡	0㎡	
9	ＣＧ－Ｂ７	○			28,300㎡	H13 H22	26,500㎡ 1,800㎡	『県内分8』 (28頁)	0㎡	700㎡ 0㎡	H13試掘範囲のうち保存面積（700㎡）確定。
合計		8	1	0	107,200㎡	終了	101,900㎡		5,300㎡	20,500㎡	保存20,500㎡のうち，700㎡未発掘。
						H22	1,800㎡			0㎡	

［用　例］『南倉沢＊』→『一般国道289号南倉沢バイパス遺跡発掘調査報告＊』

福島県文化財調査報告書第479集

福島県内遺跡分布調査報告18

平成24年２月29日発行

編　集　㈶福島県文化振興事業団
〒960－8116　福島市春日町５－54

発　行　福島県教育委員会
〒960－8688　福島市杉妻町２－16

印　刷　株式会社山川印刷所
〒960－2153　福島市庄野字清水尻１－10

２０１２